

# PRINTRONIX®

---

## T8000 シリーズ サーマルプリンタ

### クイックセットアップガイド



**MUNAZO Inc.**

**ムナゾ株式会社**

〒658-0032 神戸市東灘区向洋町中6-9 KOBE FM

TEL 078(857)5447 FAX 078(857)5443

<http://munazo.jp>

E-mail : [munazo@munazo.jp](mailto:munazo@munazo.jp)

## 1 プリンタを正しくお使いいただく為に

プリンタは、光学／精密電子機器ですのでお取り扱いには十分なご注意ください。下記内容のご注意の遵守をお願いいたします。

### ご注意点

- 熱の発生源の近く、直射日光の当る場所、電磁界、腐食ガスの環境、埃の多い所、使用周囲温度(15～30℃)／使用周囲湿度(10～80%)を越える場所に設置しないでください。\* 但し結露なきこと。
- 本体を持ち運ぶときは、衝撃を与えないようにして下さい。
- 振動や衝撃の加わる場所での設置はしないで下さい。また、本体や電源コード等の上に物を載せないで下さい。故障による火災・感電の原因となります。
- 排熱のための通風口をふさがないで下さい。故障による火災の原因となります。
- 水場付近では使用しないで下さい。
- 絶対に分解したり修理・改造しないでください。火災や感電の原因となります。  
また、分解された場合には保証期間中であっても無償保証の対象外となります。
- 電源及び通信プラグを抜くときはコードを持たず、必ずプラグ部分を持って抜いてください。
- 付属の電源及び通信コード以外は使用しないで下さい。火災、感電、故障の原因となります。
- 本体から何かこげるような匂いがしたり、異様な音がしたときは直に電源プラグを抜いてください。そのまま使用すると火災、感電の原因となります。
- **機器に影響を与える恐れのある電磁波等を発生し易い装置のそばには設置はしないで下さい。**
- 雷が近いときはすみやかに電源を OFF にし電源コードをコンセントから抜いて下さい。
- 長時間使用しないときは、電池を OFF にし電源プラグはコンセントから抜いて下さい。漏電、火災の原因となります。
- プリンタ記録紙は、乾燥した冷暗所に保存してください。

## 2 警告及び特記事項

お客様の安全と機器を保護するために、太字で記した注意事項を読んで、従ってください。

**警告!** お客様の安全と機器に対するダメージを引き起こす条件

**注意!** プリンタ及びその周辺機器に対するダメージを引き起こす条件

**重要** プリンタの正しい操作の為に不可欠な情報

**注記** プリンタ操作に役立つ情報とヒント

## 目 次

|   |   |    |
|---|---|----|
| 1 | はじめに.....   | 6  |
|   | T8000 ファミリープリンタ .....                                 | 6  |
|   | 標準機能 .....  | 7  |
| 2 | 操作方法.....   | 9  |
|   | コントロール及びインジケータ .....                                  | 9  |
|   | 電源スイッチ .....  | 9  |
|   | コントロールパネル.....  | 9  |
|   | 操作モード .....   | 10 |
|   | オンライン画面.....  | 11 |
|   | オフライン（ホーム）スクリーン.....                                  | 12 |
|   | ジョブ進行中.....   | 16 |
|   | メディア取扱モード.....  | 16 |
|   | メディアとリボンの取付.....                                      | 18 |
|   | ロールメディアの取付.....                                       | 18 |
|   | リボンの取付.....   | 23 |
|   | 印刷の調整 .....   | 26 |
|   | プリントヘッド圧力調整.....                                      | 26 |
|   | プリントヘッド圧力ブロック調整.....                                  | 27 |
|   | 左圧力ブロック.....  | 27 |
|   | 右圧力ブロック.....  | 27 |
|   | メディアセンサーの位置決め.....                                    | 28 |
|   | 黒い水平マークのあるメディア又はラベルの長さを示すインジケータ（無効）がないメディアを検出する ..... | 29 |
|   | 黒い水平マークのあるメディアを検出する .....                             | 29 |

|   |    |
|---|----|
| ラベルの長さを示すインジケータがないメディアを検出する.....                        | 29 |
| ギャップ、切り込み又は穴（ギャップ）のあるメディアを検出する.....                     | 30 |
| ギャップ（高度なギャップ）のある裏側が濃い色のメディアを検出する.....                   | 31 |
| 切り込み又は穴（高度な切り込み）のある裏側が濃い色のメディアを検出する.....                | 32 |
| 異なるメディアの種類を検出する.....                                    | 33 |
| メディアセンサーをキャリブレートする.....                                 | 34 |
| 自動キャリブレーションを起動する.....                                   | 34 |
| メディアプロファイルを実行.....                                      | 36 |
| ギャップの検知.....  | 37 |
| 高度なギャップの検知.....   | 40 |
| 手動でキャリブレーションを実行.....                                    | 41 |
| クリーニング.....   | 43 |
| 外部のクリーニング.....  | 43 |
| 内部のクリーニング.....  | 43 |
| プリントヘッド、プラテンローラ、メディアセンサー及びメディアダンパー（緩衝器）<br>のクリーニング..... | 43 |
| プリントヘッドのクリーニング.....                                     | 43 |
| プラテンローラのクリーニング.....                                     | 44 |
| メディアセンサーのクリーニング.....                                    | 45 |
| メディアダンパーのクリーニング.....                                    | 46 |
| オプションカッターのクリーニング.....                                   | 46 |

## 1 Introduction (はじめに)

### T8000 ファミリープリンタ

注記: このマニュアルにでてきます用語、“T8000” 及び“プリンタ”はこのシリーズのすべてのモデルに当てはまります。

T8000 シリーズは高品質のファミリーで構成され、ダイレクトサーマル及び熱転写プリンタは、複数の環境からの印刷ラベルやタグのために設計されています。

- MS-DOS
- Windows
- Unix/Linux
- EBCDIC (TN ファームウェア又は IPDS オプションと)
- SAP/ERP (Postscript/PDF ファームウェア又は SAP デバイスタイプのファームウェアと)

T8000 シリーズは下記の表1の製品群で構成されています。

表 1

| Version | Max Print Speed (ips) | Printing Density | Max Print Width |
|---------|-----------------------|------------------|-----------------|
| T8204   | 14                    | 203              | 4.1             |
| T8304   | 12                    | 300              | 4.1             |
| T8206   | 12                    | 203              | 6.6             |
| T8306   | 10                    | 300              | 6.6             |
| T8208   | 10                    | 203              | 8.5             |
| T8308   | 8                     | 300              | 8.5             |

## Standard Features (標準機能)

- 512MB DRAM メモリー (固定)
- 128MB フラッシュメモリー (固定)
- 自動ラベルマッピング: Printronix ラインマトリックスプリンタ用のプログラムとの互換性
- バーコード: 1-D 及び 2-D すべてのバーコードをサポート
- ダウンロード: フォント、フォーム、及びグラフィックスをプリンタメモリーへ
- エミュレーション:
  - Printronix Line Printer Plus: Printronix P-Series Printers、Epson FX-1050、Proprinter IIIXL、及び Serial Matrix Printers との互換性を提供。
  - Printronix PGL: テキスト、バーコード、グラフィックス、ライン及びボックスのためのプリンタシステムコマンドを提供。
  - Printronix VGL: オンラインフォーム、バーコード、及び英数字を通常及び高解像度でテキスト生成を作り出すための QMS Code V Version II プログラミングを言語をエミュレートする。
  - ZGL 解釈プログラム — レガシーZPL (Zebra) アプリケーション用
  - TGL 解釈プログラム — レガシーTEC (TEC) アプリケーション用
  - IGL 解釈プログラム — レガシーIPL (Intermec) アプリケーション用
  - STGL 解釈プログラム — レガシーSPL (SATO) アプリケーション用
  - DGL 解釈プログラム — レガシーDPL (Datamax) アプリケーション用
  - IEGL 解釈プログラム — レガシーIER-520 (IER) アプリケーション用
  - MGL 解釈プログラム — レガシーMPCL (Monarch) アプリケーション用
- 高解像度プリントヘッド: 鮮明なグラフィックス及びテキスト
- ラベル剥がれセンサー: ティアオフモードでラベルが取り除かれたことを検知(オプションのリワインダがインストールされている場合はピールオフモードでも)。
- ネットワークインターフェイスポート: このインターフェイスでプリンタを LAN(ローカルエリアネットワーク)に接続することができます。ポートは後ろのパネルに用意されています。イーサネットポートは 10/100Base で、100 Mbps までデータの転送をサポートします。パッケージには PrintNet Enterprise Suite(PNE)が含まれています。
- 常駐フォント(標準ファームウェア): Letter Gothic Bold (#93779), Courier Bold (#93592), CG Triumvirate Bold Condensed (#92250), OCR-A #90993), OCR-B (#91409), CG Triumvirate (#92244), CG Triumvirate Bold (#92248), CG Times New Roman (#92500).
- SD メモリーカード: 4 から 32GB まで SD カードをサポート。
- シリアル RS-232
- ティアオフモード: ラベルをカート位置まで移動し、次のラベルを印刷する前にラベルが取り外されたことを検知します。

- **ティアオフストリップモード:** 指定された枚数を印刷し、最後のラベルをカット位置へフィードします。
- **熱転写方式及び直接感熱方式印刷:** すべてのプリンタ。
- **USB 2.0 ユニバーサルシリアルバス**
- **通気口の無いシステム(ベントレスシステム):** 浮遊粒子状物質が存在する環境下でも性能に影響を及ぼすことなく印刷が可能。

## Operation (操作方法)

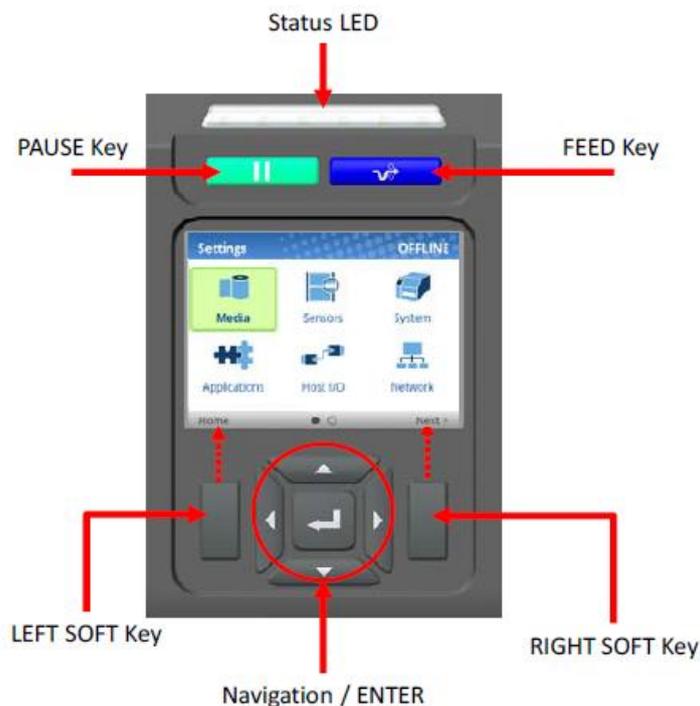
### Control and Indicators (コントロール及びインジケータ)

#### Power Switch (電源スイッチ)

電源スイッチはプリンタの後ろ側の下に配置されています。スイッチを I (ON) の位置にすると、電源が入ります。初めてプリンタの電源を入れますと、LCD カラーコントロールパネルに初期化手順が表示されます。スイッチを O (OFF) の位置にすると、電源は切れます。

#### Control Panel (コントロールパネル)

コントロールパネルはプリンタの前面に取り付けられており、Status LED (状態確認)、QVGA カラーディスプレイ、PAUSE (一時停止) キー、FEED (送り) キー、LEFT SOFT (左ソフト) キー、RIGHT SOFT (右ソフト) キー、及びナビゲーションキー (ボタン) を含みます。ENTER (エンター) ボタンが中央に。



QVGA スクリーンの解像度は320X240ピクセルのカラーディスプレイ (非タッチ式)。コントロールパネルの上部はユーザーインターフェイス(UI)によりプリンタの状態と位置を表示し、中間は全般表示部分で最下位部は LEFT 及び RIGHT SOFT キーの目的を示すために使用されます。

Status LED はプリンタがオンライン、オフライン又は故障状態を指し示します。

- LED が点灯中: オンラインで印刷準備ができています。
- LED がオフ: オフラインでデータを受取らない。
- LED が点滅中: 故障状態。

| Button   | Description  | Functionality  |
|--|--|--|
|   | PAUSE キー<br>プリンタをオンラインとオフラインモードの切換を繰り返す。                           | オンラインの場合、プリンタをオフラインに、そしてインターフェイスをホームスクリーンへ。オフラインの場合、プリンタをホームスクリーンへ、もう一度押すと、オンラインになる。 |
|   | FEED キー  | メディアをラベル1つ分送る。オンラインの場合、Print Control > Feed Key Online メニューを有効にしなければ、このキーは機能しません。    |
|   | ナビゲーションキー<br>ナビゲーションメニューは、上、下、左、右、ENTER ボタンで                       | アイコン及びメニューの選択、UI 内のナビゲーションのために使います。  |
|  | ソフトキー<br>ナビゲーションメニューの横には、左と右のソフトキーがあります。UI のフッターにあるラベルに機能の説明があります。 | UI スクリーンのフッターにあるラベルを確認してください。ソフトキーの意味合いは変化します。                                       |

### Operating Mode(操作モード)

現在の操作モードはコントロールパネルキーを通じて選択できます。又は、プリンタの電源を入れるような定常操作から生じることがあります。

**Online(オンライン):** オンラインモードでは、プリンタはホストからデータを受取、印刷をします。PAUSE キーを押すことによりプリンタをオンラインとオフラインモード間で切り替えます。Status LED はオンの状態です。

**Offline (Home)(オフライン):** プリンタがオフラインになれば、Status LED はオフで、UI はホームスクリーンにあります。ホームスクリーンでは3種類のアイコンから選択できます、1) Wizard、2) Settings、3) Calibration。グリーンになっているアイコンが現在の選択です。PAUSE キーを押せば、プリンタはホームスクリーンからオンラインモードに切替ります。

**Settings(設定):** ホームスクリーンから設定を選んだ場合、アイコンを操作及びメニューリストから検索するれば、プリンタメニューへアクセスできます。オンラインに戻る時には Config アイコン又は Auto-Save(自動保存)機能を使って環境設定を保存することができます。

**Wizard(ウィザード):** ホームスクリーンからウィザードを選んだ場合、オンラインビデオやその他の資料に関して、詳細の説明をもとに異なった箇所の印刷設定を行う事ができます。最初に立ち上げた時には、ユーザーは自動的にプリンタセットアップウィザードに誘導されます。

**Fault(フォールト):** 故障モードの場合、印刷を続けるには、故障の状態を先に解消する必要があります。Status LED 表示器は点滅し、設定されていれば警告ビープ音が鳴り、UI は故障画面を表示します。通常の印刷を継続するためには、故障を直し、PAUSE キーでメッセージをクリアして、プリンタをオンラインにしてください。

### Online Screen (オンライン画面)

プリンタがオンラインでデータを受ける用意ができれば、オンライン画面が表示されます。デフォルトでは、立上が完了した時点で見える最初の画面です。オンライン画面の全ての機能を示すためには、以下のオプションが想定されます。

- ◆ ネットワークがインストールされていて、IP が設定されている。
- ◆ WiFi がインストールされていて、IP が設定されている。
- ◆ プリンタにはネットワークプリンタ名が付いている。
- ◆ バリデータはインストールされていて、有効になっている。
- ◆ アクティブコンフィグレーションはカスタム名”Warehouse”で保存されている。
- ◆ *Media > Handling > Print* モード は Transfer(転写)(リボン)に設定されている。
- ◆ *System > Control > Batch Counter* 中のメニューオプションは有効になっている。



上記のイラストには、以下の表に記載されているオンライン画面の機能それぞれに当てはまる番号が付いています。

| 品目番号 | 説明   |
|------|--|
| 1    | モデルのフルネームにはプリンタのメディア幅と解像度が含まれている。  |
| 2    | ネットワークプリンタ名は Telnet、SNMP 又はウェブページを通して設定でき、イーサネット又は WLAN 機能で使用することができます。  |
| 3    | IP アドレス(ゼロではない)が設定されていれば、イーサネット IP アドレスが表示されます。                          |
| 4    | IP アドレス(ゼロではない)が設定されていれば、WLAN IP アドレスが表示されます。WLAN アドレスの横にシグナル強度の表示もあります。 |
| 5    | アクティブな IGP エミュレーションとアクティブホスト IO (最後のジョブに基づいて)。                           |
| 6    | この箇所はデータの受取、バッチカウンタ、ジョブ状況などのメッセージのために確保されている。                            |

|    |   |
|----|---|
| 7  | ODV オプションが有効になっている場合、バーコードアイコンが現れます。このオプションがインストールされていても、無効になっていれば、このアイコンには赤で斜線が入ります。バリデータがインストールされていない場合、アイコンは表示されません。 |
| 8  | 最後にロードされたコンフィグレーションが"Active Config"と称される。   |
| 9  | プリントヘッドの目盛はどれほど使用されたかを現すものです。   |
| 10 | リボンの目盛はリボンが装着されている(熱転写)場合に使われます。  |

オンラインの状態では警告を表示しなければならない場合、ポップアップメッセージが画面上に現れます。例えば、Power-Saver (節電)モード、プリントヘッドの加熱、等に入る場合。

### Offline (Home) Screen (オフライン(ホーム)スクリーン)

Pause キー  を使ってプリンタをオフラインにした場合、UI はホームスクリーンを表示します。オンラインからオフラインに切り替えた時に初めて見る画面がホームスクリーンです。同様に、それはオンラインに戻る時に見れる最後の画面です。システム内の問題が解決されていない場合、ヘッダの右角に  表示される事があります。

ナビゲーションキーを使って3種類のオプションの間を移動できます。

- **Wizard(ウィザード)**: セットアップの方法、ウェブ上の情報、及び QR コードを通してメーカーのサイトへのリンクなどが提供されます。
- **Settings(設定)**: プリンタメニューへのアクセスを可能にします。
- **Calibrate(キャリブレーション)**: リボン又はメディアが装着されている時にキャリブレーションが簡単に行えます。

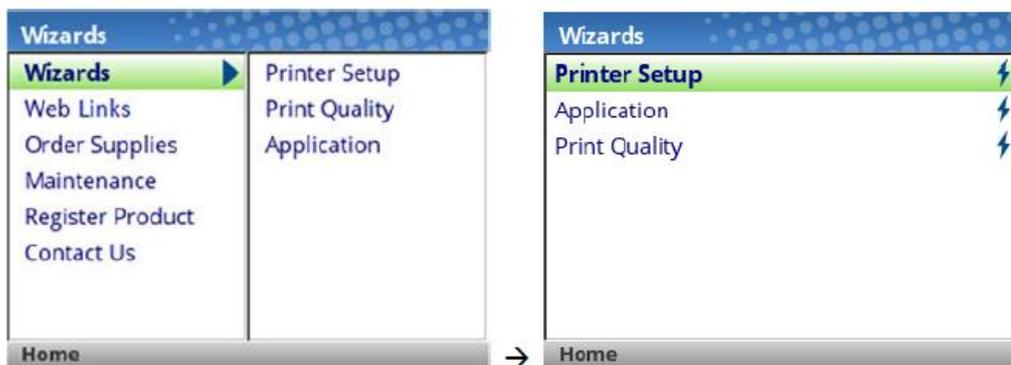


左及び右ソフトキーにも機能があります。もしバッファにデータが保存されていて、設定が *System > Control > Cancel* キーが有効であれば、左ソフトキー“Cancel Data”があります。“Info”と表示されている右ソフトキーは UI に現在のコンフィグレーションをテキストとして現し、必要があればデータを見たり、印刷することができます。

## Wizard(ウィザード)

ウィザードは次の図に示されてあるように、いくつかのリソースを備えております。ウィザードの最大の利点は、最初のサブカテゴリ、”Wizard”、です。このカテゴリをグリーン色で強調して、ENTER 又は右矢印キーを押せば、ウィザードの選択肢の中から選ぶ事ができます。

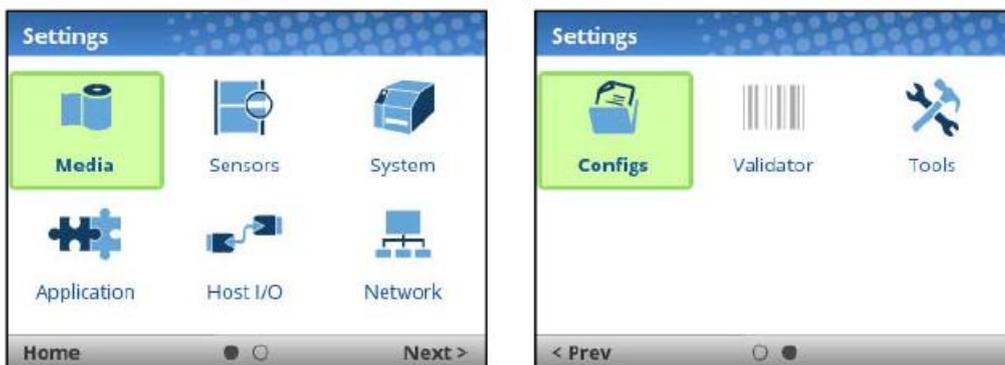
- **Printer Setup(プリンタセットアップ)**: プリンタ設定はプリンタが正常に作動することを確認するために、正しい言語表示、リボンとメディアの装着、メディア及びセンサーの設定、キャリプレートやテストパターンの印字などを選択するのに役立ちます。
- **Application(アプリケーション)**: ホストから来るラベル又はアプリケーションに特定したメニューの構成を設定するのに役立ちます。
- **Print Quality(印字品質)**: 印字速度やプリンタの強度など、機械的な調整をするのに役立ちます。



ウィザードが完了しましたら(最初から最後まですべて)、通常の手順でコンフィグレーションを保存する必要があります。これについての例外は、最初にプリンタを立ち上げた時です。この場合、プリンタセットアップウィザードへ自動的に導かれ、コンフィグレーションも自動的に Config 1 に保存されます。

## Settings(設定)

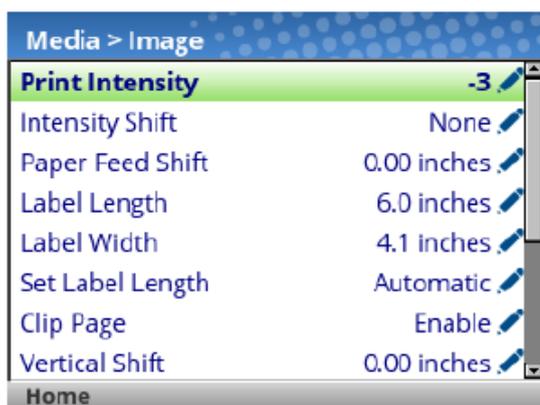
セッティングのセクションではユーザーがフルメニューセットを調べたり、メニューの編集、診断の実行、コンフィグレーションの保存などを行う事ができます。セッティングのセクションはナビゲーションキーと ENTER ボタンを使って選択できる2ページのアイコンから始まります。



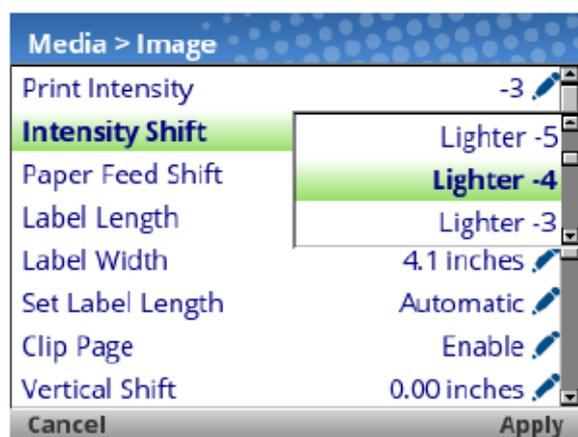
アイコンが選択されれば、画面はサブメニューが左側、メニューは右側に分かります。上下矢印キーを使ってサブメニューそれぞれを選択すると、右側のメニューが変化し、内容を確認できます。



特定のサブセクションの内容をすべて確認又はそれらのメニューを編集したい場合、ENTER 又は右矢印キーを使って編集のところへ進んでください。逆に、前の画面に戻るには左矢印キーを使ってください。



編集のところでは、上下矢印キーを使ってメニュー及びそれらの数値をスクロールします。このアイコン  が付いているメニューに限り ENTER キーを使って編集、数値の変更及びその変更の確認を”Apply”ソフトキーを使って行います。ユーザーが変更を望まない場合は”Cancel”ソフトキーを使うこともできます。



稲妻アイコン ⚡ が付いているメニュー、実行可能なメニューです。ENTER キーを押せば、特定の機能が働きます（例えば、印字テストの実行、統計データをクリア）。メニューにアイコンが付いていないものは見るだけで、ENTER キーを押しても、何も影響ありません。

### Calibration (キャリブレーション)

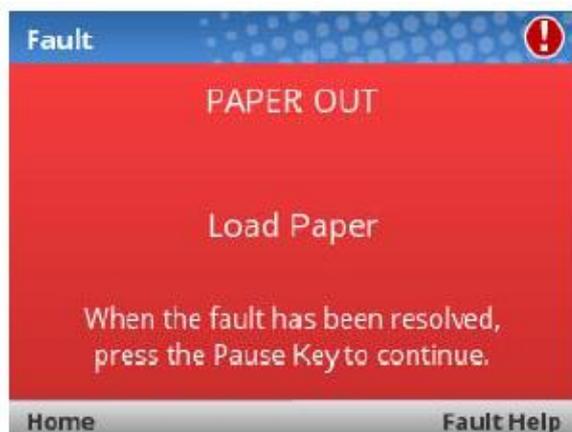


新しいメディア又はリボンが装着されたり、センサーに影響するコンフィグレーションパラメータが変更された場合などにはキャリブレーションを実行しなければなりません。このショートカットアイコンを選んで、ENTER キーを押せば、自動キャリブレーション機能を始動させます。Sensors > Calibrate > Auto Calibrate にもあります。

### Fault (フォールト)



問題が起これば、下記のような画面でユーザーに知らせます。ユーザーが気が付きやすいように、赤い色で注意を促します。



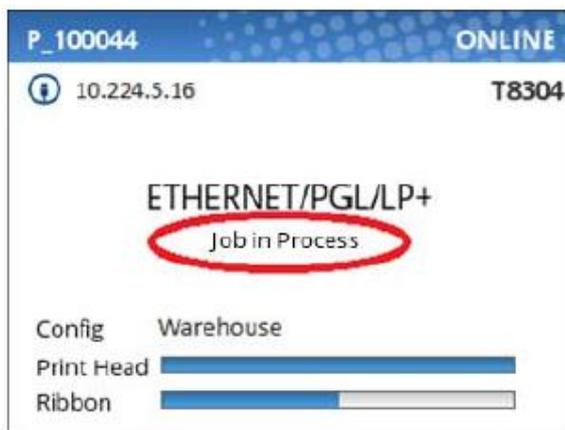
画面に表示された内容以上知りたい場合、右ソフトキーを使って”Fault Help”を参照することができます。”Fault Help”を選択すれば、いくつかの画面によりユーザーの処理手順の手助けをします。しかし、Fault Help は複雑なフォールト又はより多くの手順が必要な場合にのみ、提供されます。ユーザーは左ソフトキーを通じて”Home”画面に行き、そこから **Settings** 又は **Wizard** セクションデメニュー

一の数値を調整できます（例えば、メディアのパラメータ、ロードコンフィグ、等）。

**注記：** 上側の右角に表示されるアイコン  によりフォルトをクリアするよう注意を引きます。ユーザーがすべての手順を完了させても、アイコンが消えないことがあります。種類によって、オフラインでフォルト自体がクリアされるものとオンラインに戻らなければ、クリアされないものもあります。フォルトが正しくクリアされなかった場合、オンラインに戻ろうとした時に、上記のような画面が再度表示されます。

### Job in Process（ジョブ進行中）

ジョブの進行中を知らせる LED 又は” Status Indicator”はありません。プリンタがデータを受信している事は赤で囲まれているメッセージで分かるようになっています。



プリンタがオンラインモードでデータを受信及び処理している場合、”Job in Process”のメッセージが表示されます。ジョブの印刷が完了すれば、メッセージは消えます。バッチモードで印刷されていて、オプションの *System > Control > Batch Counter* が有効であれば、ページのカウン트가”Job in Process”メッセージより優先されます。

プリンタがオフラインモード及びホーム画面にある場合、もしデータがバッファにあれば、左ソフトキーは”Cancel Data”と表示されます。バッファにデータがない時は、左ソフトキーは何も表示しません。”Cancel Data”処理が必要な場合、メニューの *System > Control > Cancel Key* を有効にする事が必要です。

### Media Handling Modes（メディア取扱モード）

メディアを装着する前に、どのモードを使用するか決めなければなりません。

- ◆ **Continuous（連続）：** メディアに印刷してプリンタの前面から排出します。もしオプションの内部巻き戻し器がインストールされている場合はバッチ巻き戻しモード用 Continuous”を使ってください。
- ◆ **Tear-Off Strip（ティアオフストリップ）：** メディアに印刷して、バッファが空になるまでプリンタの前面から送り出します。その後、取り除くために最後のラベルをテア・バーの上に位置付けます。
- ◆ **Tear-Off（ティアオフ）：** ラベルが印刷されるたびに、ラベルをテア・バーの上に位置付け、ラベルを破り取るまで、次のラベルの印刷を待ちます（オンデマンド印刷）。次のラベルを印刷するために、ラベル

を取り除くよう、「Remove Label」メッセージを表示します。

- ◆ **Peel-Off(ピールオフ)**: オプションの内部巻き戻し器がインストールされている場合、プリンタは印刷して、ダイカットラベルはライナーから剥がされます。ラベルライナーは巻き戻し器に巻かれます。プリンタはラベルが取り外されるまで、次のラベルの印刷を待っています(オンデマンド印刷)。次のラベルを印刷するために、ラベルを取り除くよう、「Remove Label」メッセージを表示します。
- ◆ **Cut(カット)**: オプションのカッターが取り付けられている場合は各ラベルが印刷されるごとにメディアを自動的にカットします。IGP エミュレーションを使えば、指定された数のラベルが印刷されたあとにメディアをカットします。

モードが決まりましたら、プリンタを構成してください。

## Loading Media And Ribbon (メディアとリボンの取付)

注意: プリントヘッド及びプリントヘッドアセンブリの下にある電気系統には触れないでください。

注意: ラベルメディアをプリントヘッドとプラテンの間にラベルメディアを装着せずにピボットデッキを閉めないでください。

## Loading Roll Media (ロールメディアの取付)

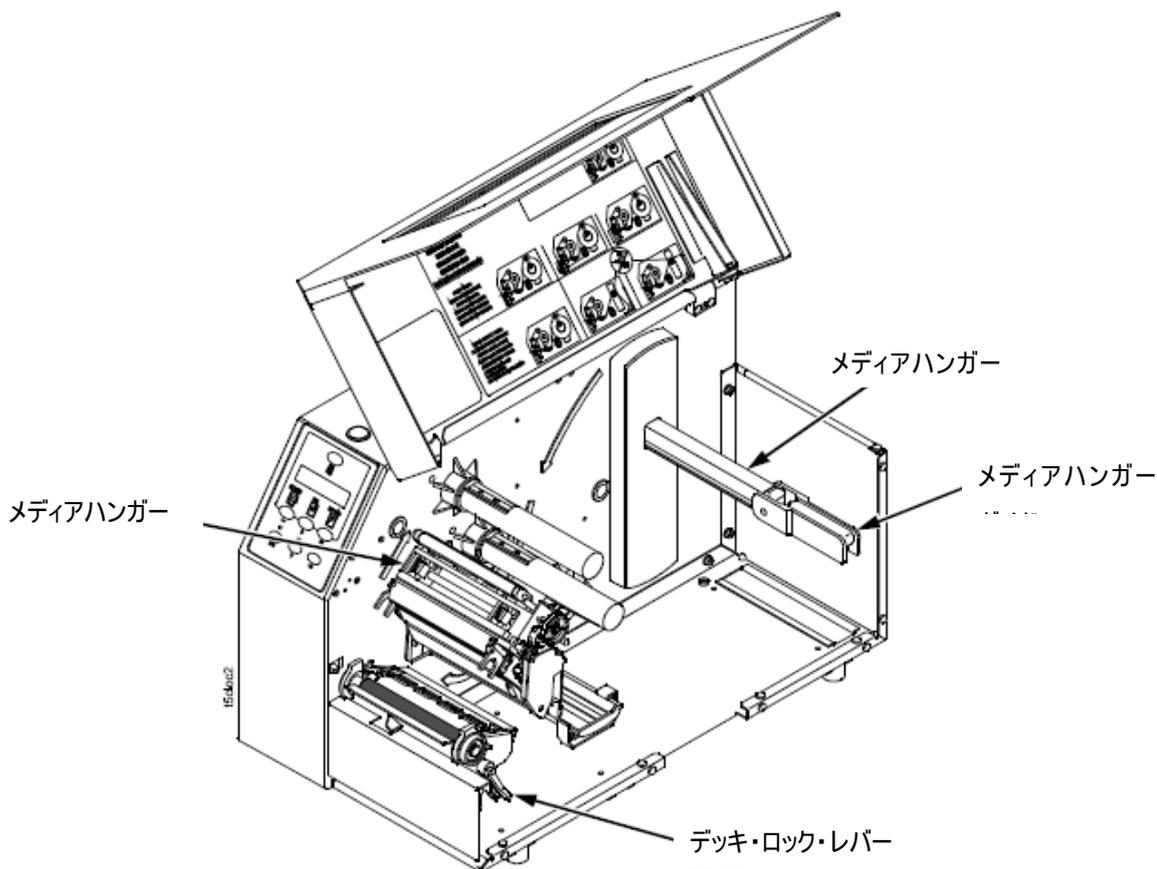


図1

**重要:** ダイレクトサーマルを使っている場合は、メディアを交換するたびにプリントヘッド、プラテンローラ、及び上下のメディアセンサーを掃除して下さい。

1. 図にありますようにメディアハンガーガイドをメディアハンガーの先までスライドさせて水平になるようにしてください。
2. デッキロックレバーを時計回りに廻してピボットデッキを開いてください。

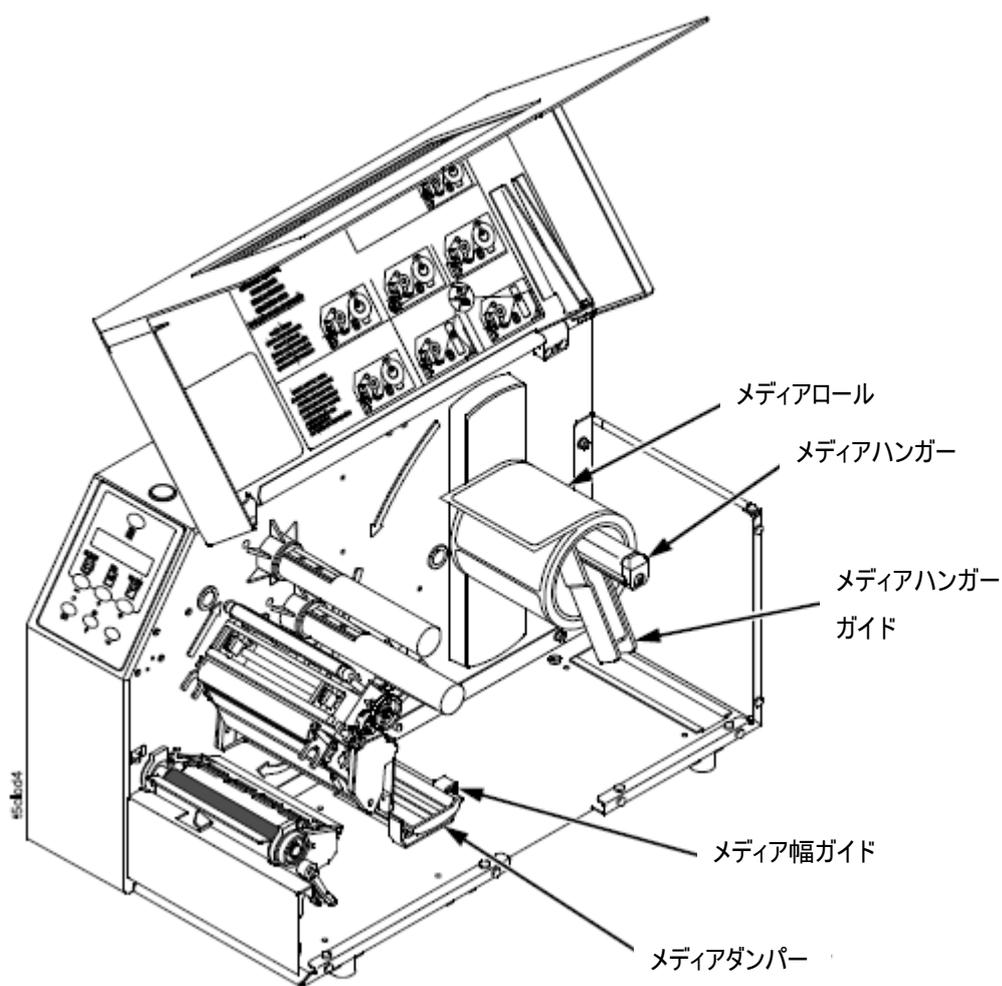


図2

3. メディアダンパーの外側の先近くまでメディア幅ガイドをスライドさせてください。
4. メディアロールをメディアハンガーの奥まで入れてください。
5. 図に示していますように、メディアハンガーガイドをラベルの芯の下側に45度で当ててください。この位置が新しいラベルロールに必要な張力を与えます。

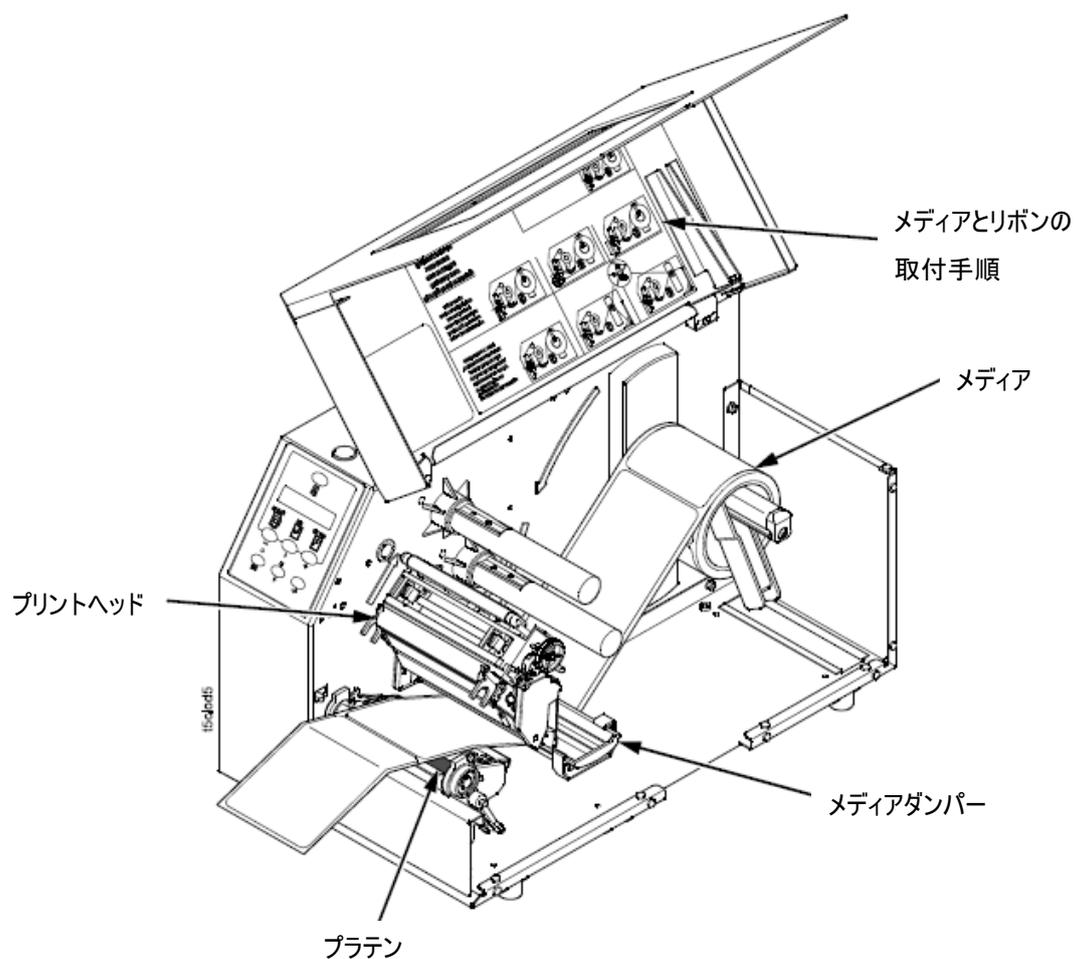


図3

6. メディアをメディアダンパーの下を潜らせ、プラテン(ゴムのドライバローラ)とプリントヘッドの間を通して下さい。メディアの取付に関しては、プリンタのフレームにあります矢印又はメディアカバーの内側の取付手順に従って進める方法もあります。

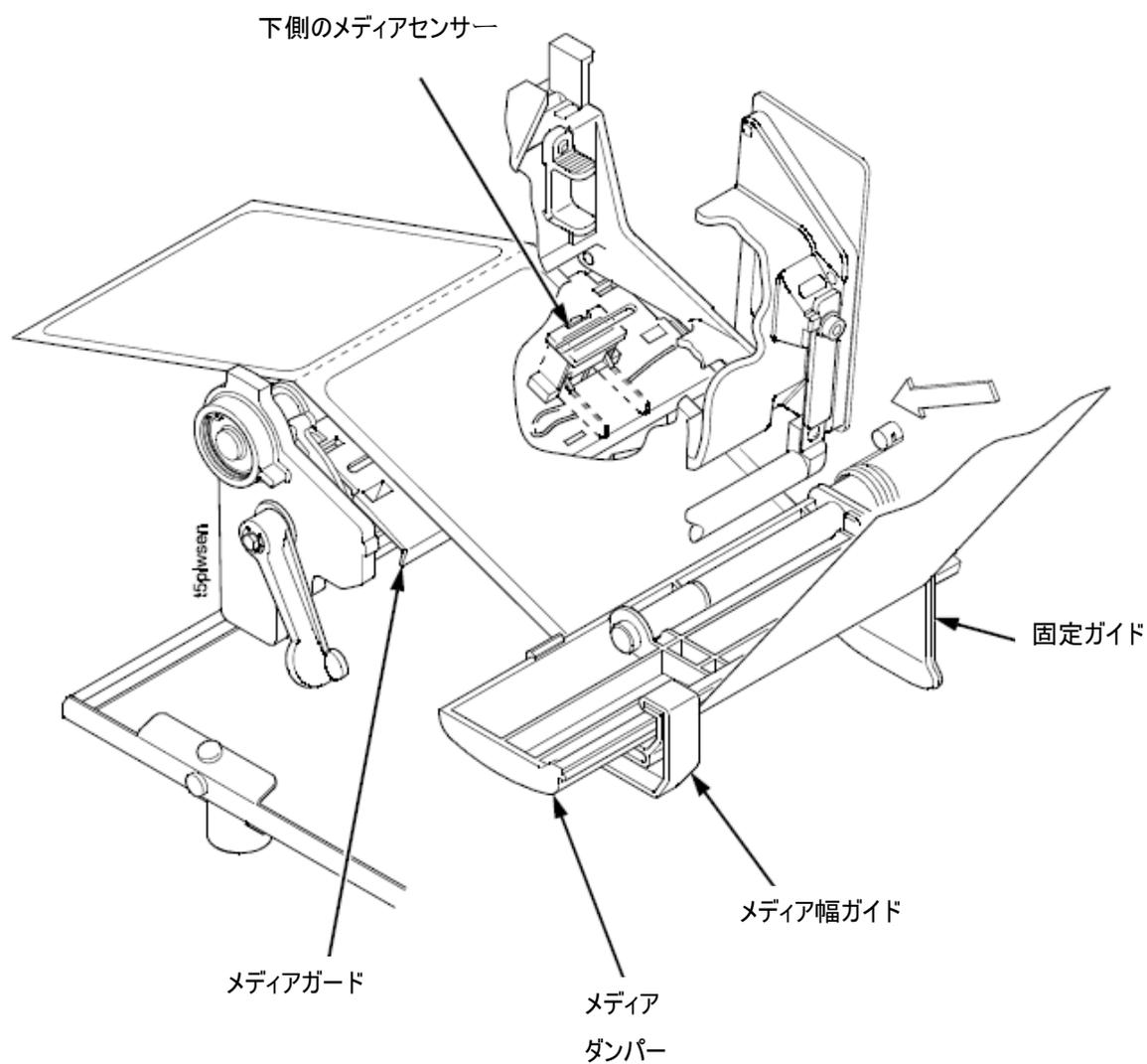


図4

7. メディアの左端がメディアダンパーの下側の固定ガイドに寄せられている事をご確認ください。
8. メディアの外側に合わせるように、メディア幅ガイドを移動してください。
9. 下側のメディアセンサー(メディアガードの下)と上側のメディアセンサーの水平の位置チェックしてください。

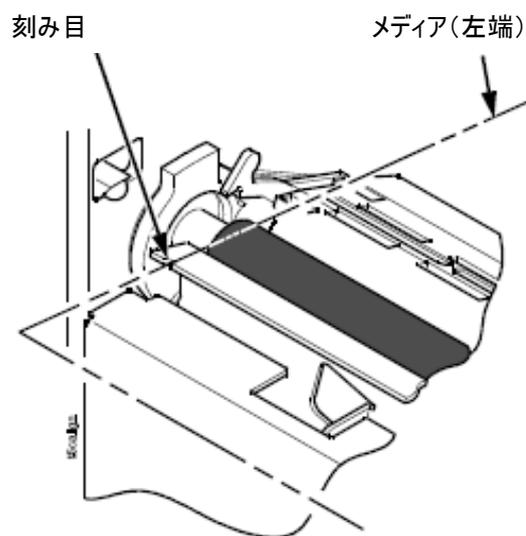


図5

10. メディアの左端をティアバーの左前の端にある切り目に合わせてください。

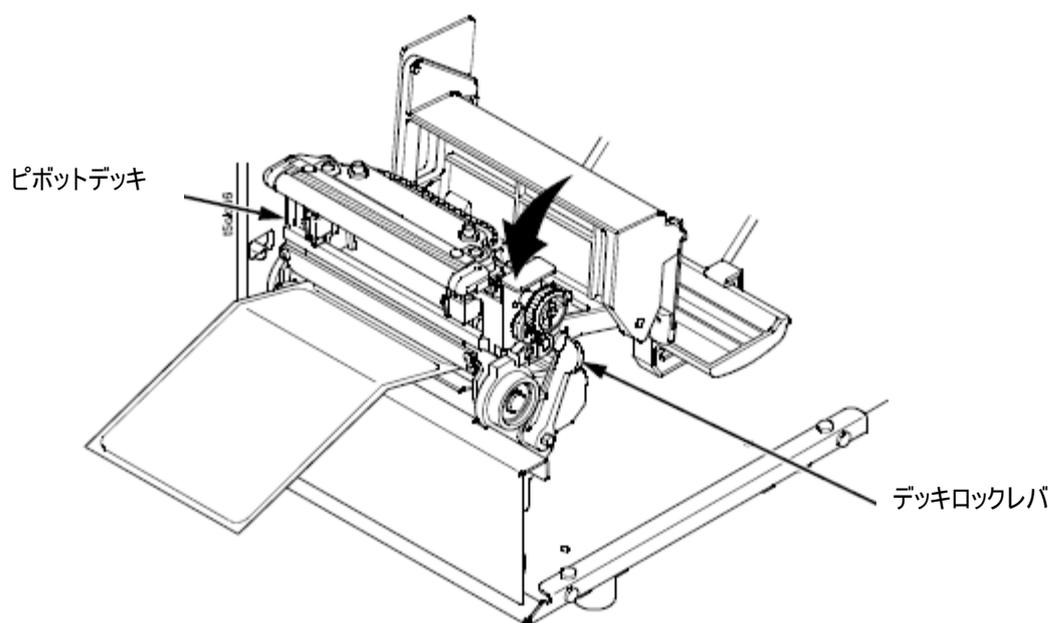
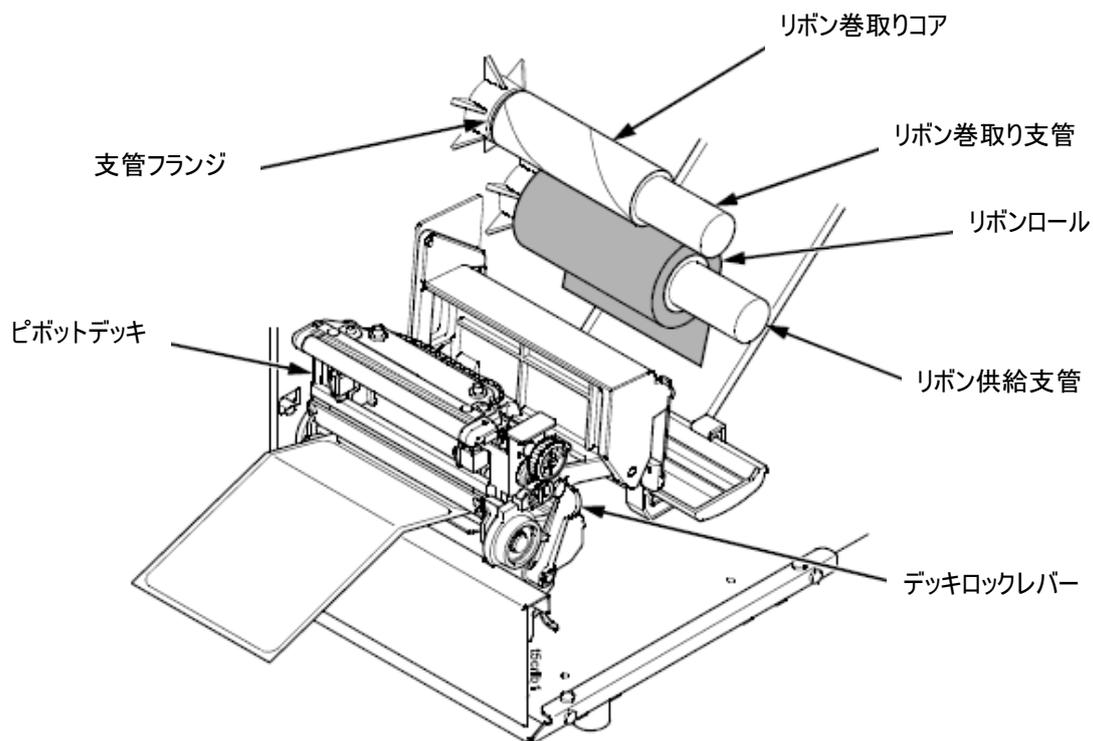


図6

11. ピボットデッキを押さえながらデッキロックレバーを反時計回りに廻してプリントヘッドを閉めてください。
12. プリンタの電源を入れてください(電源スイッチを「 | 」の位置に)。

## リボンの取付



**重要:** リボンを交換するたびに、プリントヘッド、プラテンローラ、上下メディアセンサーの掃除をして下さい。

1. リボン巻取り支管にリボン巻取りコアを取付けてください。

**注記:** 最初のリボン巻取りコアはプリンタに付いています。その後は使用済みのリボンのコアを使ってください。

2. リボンロールをリボン供給支管に取付けてください。
3. デッキロックレバーを時計回りに廻してデッキが上に上がるまでピボットデッキを開いてください。

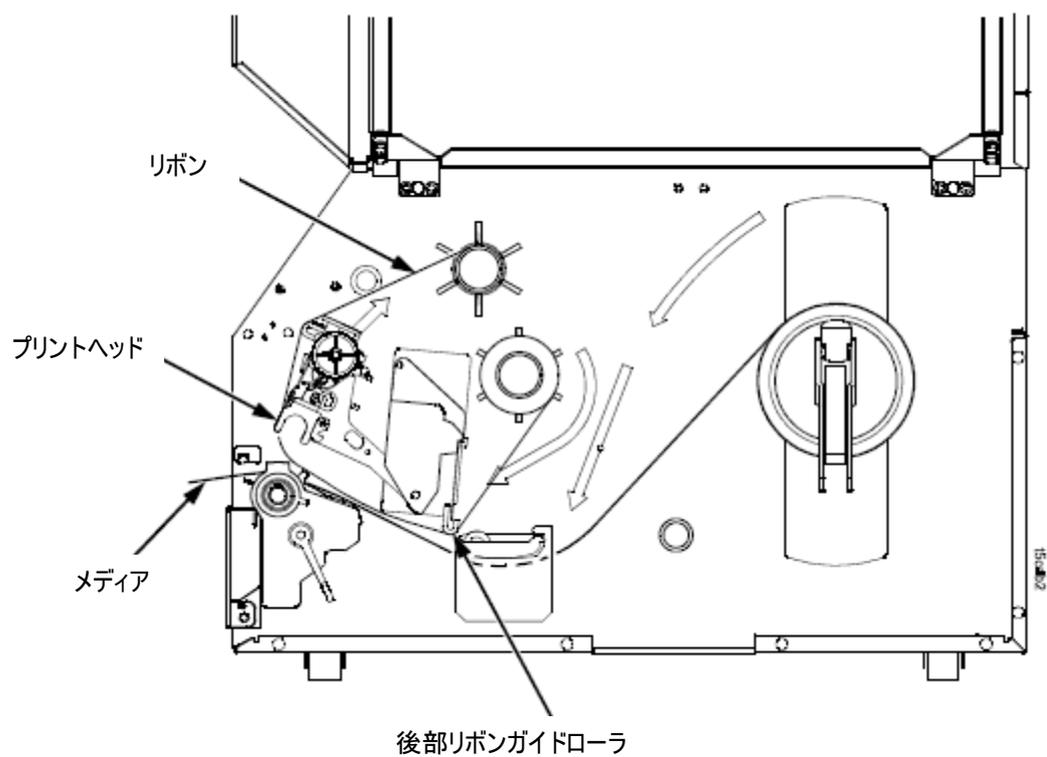


図8

4. リボンの端を後部リボンガイドローラの下からプラテンとプリントヘッドのあいだへ通してください。メディアの取付に関しては、プリンタのフレームにあります矢印又はメディアカバーの内側の取付手順に従って進める方法もあります。

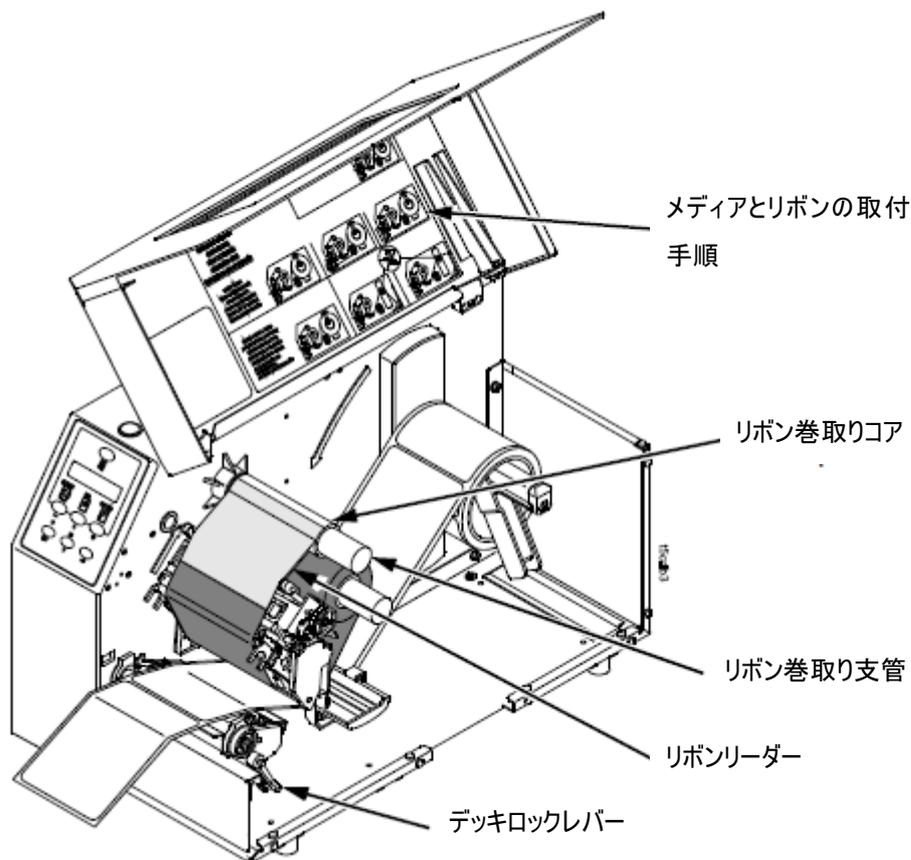


図9

**重要:** リボン巻取りコアが装着されていないあいだは、リボン巻取り支管にリボンを取りつけないでください。

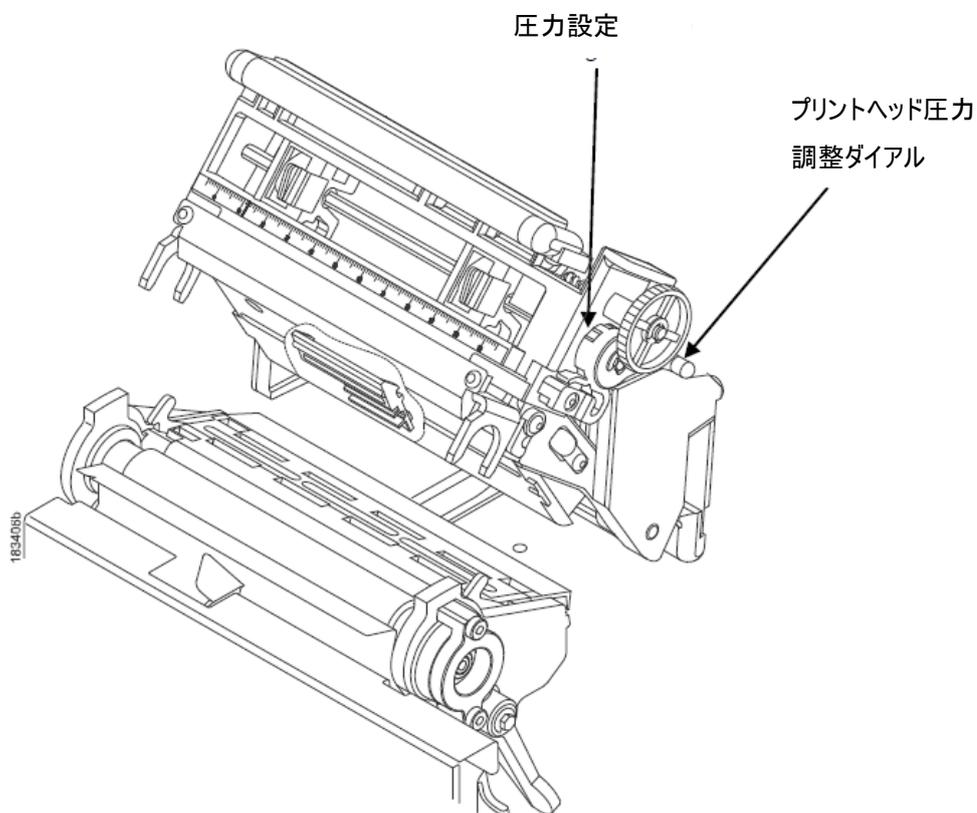
5. リボン巻取り支管に取り付られているリボン巻取りコアにリボンリーダーに付いている接着テープでリボンを貼り付けてください。

**注記:** リボンリーダーがない場合、小さな接着テープを使ってください。

6. 透明のリーダーがプリントヘッドを通り過ぎるまで、手で支管を時計回りに回転させてください。
7. ピボットデッキを閉めて、デッキロックレバーを反時計回りに廻してください。

## Printing Adjustments (印刷の調整)

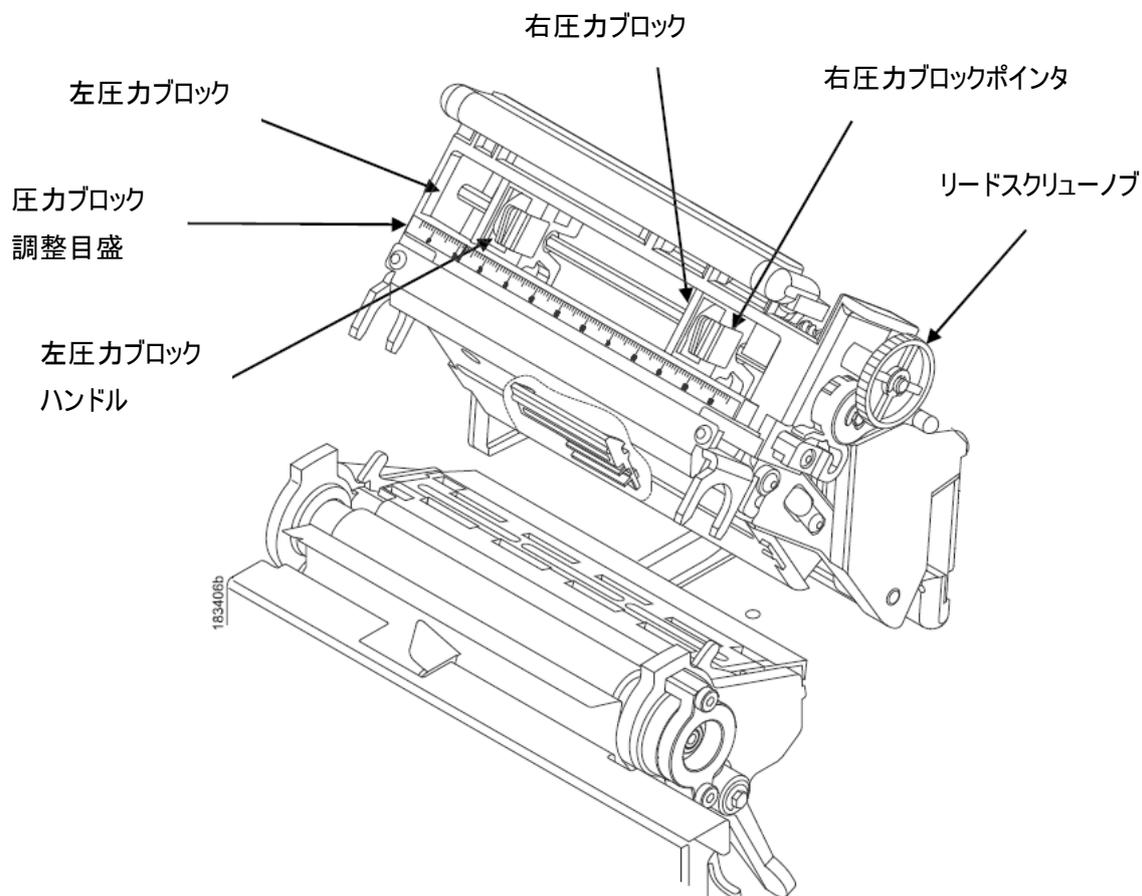
### Printhead Pressure Adjustment (プリントヘッド圧力調整)



メディアの厚みや幅の違いによってはプリントヘッドの圧力をときには調整しなければなりません。上記の図にありますプリントヘッド圧力調整ダイヤルの下側に示されている数値が実際の設定です。

望まれる印字品質を得る最小の数値にプリントヘッドの圧力を調整するのが一般的です。ダイカットラベルは大体4に合わせ、厚い物は6から最大へ。プリントヘッド圧力調整レバーの数字は特定のプリントヘッド圧力又はメディアの厚みを現すものではありません。調整することにより、プリントヘッドの消耗を軽減します。

## Printhead Pressure Block Adjustments (プリントヘッド圧カブロック調整)



プリントヘッド圧カブロックの調整は、様々なメディア及びリボンの条件下で取り付けられたメディアの幅にわたって均一な印刷濃度を得るために使用されます。

### Left Pressure Block (左圧カブロック)

通常の印刷状態の場合、左ブロックのハンドルを圧カブロック調整目盛のボールドマークに揃えます。メディア又はリボンの幅がプリンタの最大印字幅の三分の一よりも狭い場合、左圧カブロックを手動でさらに左へスライドさせる必要があるかもしれません。

### Right Pressure Block (右圧カブロック)

右圧カブロックはそのポインターを使用しているメディア又はリボンの右端の側に位置付ける必要があります。ブロックを右に移動するためにはリードスクリューノブを時計回りに、左へ移動する時は反時計回りに回してください。

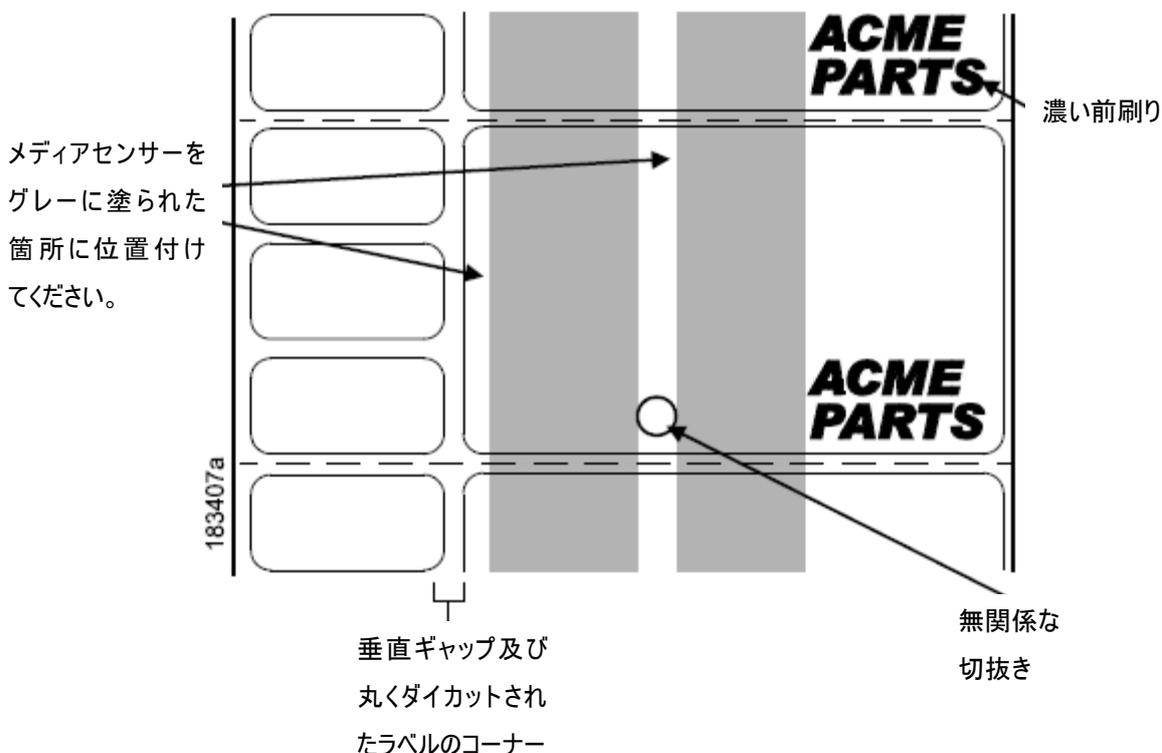
グレースケールのテストパターンを印刷して圧カブロックの位置を確かめてください。

1. PAUSE キーを押してプリンタをオフライン(ホームスクリーン)にしてください。
2. 「設定」のところへ行ってください。
3. Tools > Print Tests > Run Test から”Grey” 印字テストを選んでください。
4. ENTER キーを押してグレーテストパターンを始めてください。パターンが始まり、印刷が続きます。
5. もう一度 ENTER を押して印刷を止めてください。
6. テストパターンをチェックしてください。必要があれば、メディアの幅全体に均一な印字濃度を実現するために圧カブロックの位置を変えてみてください。ほとんどの場合、右圧カブロックだけを調整することになります。
7. 圧カブロックの位置を変更するたびに、グレーテストパターンを実行して、確認してください。

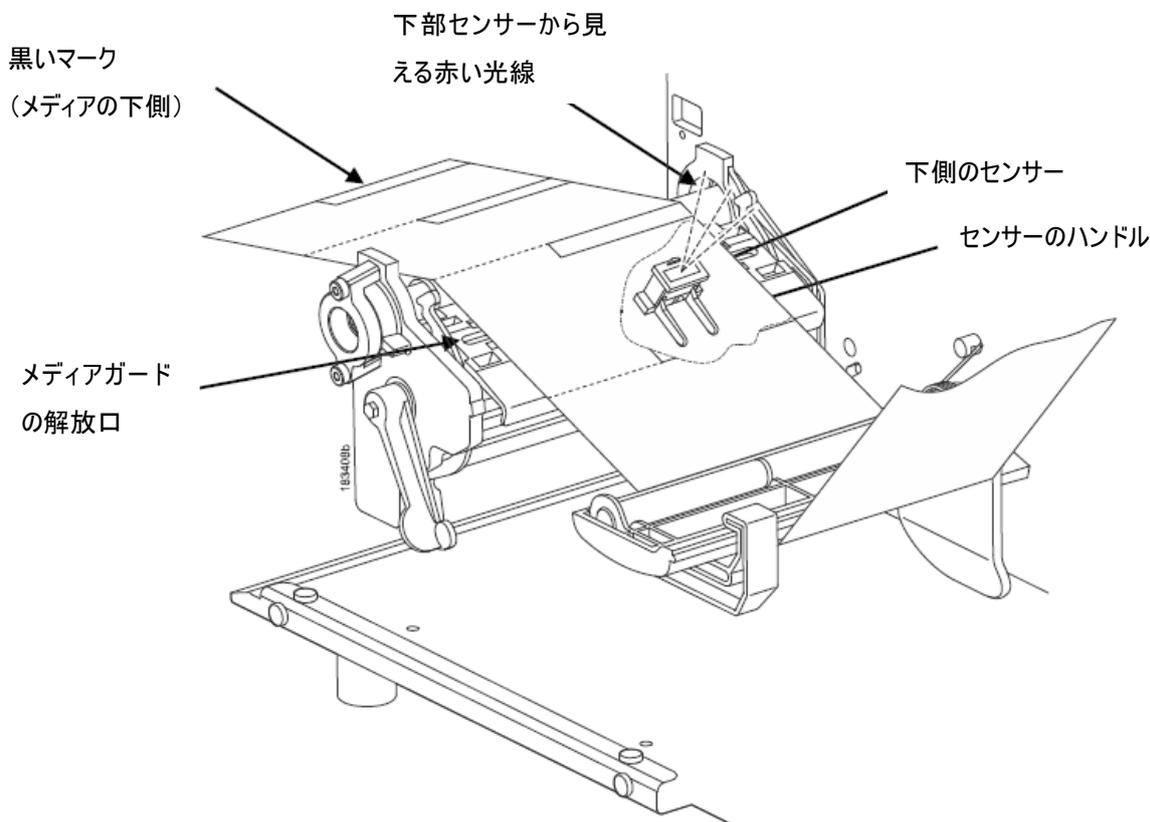
### Positioning the Media Sensors (メディアセンサーの位置決め)

プリンタには上部及び下部メディアセンサーが装備されており、それらはメディアの開始位置を示すインジケータ(ラベル間の切れ目、切れ込み、穴又は黒マーク)を検知します。これらのセンサーは紙がなくなった事にも反応します。

誤ったギャップ(ラベル間の切れ目)の検出や用紙切れ状態を引き起こす可能性があるメディア機能の経路にメディアセンサーを配置しないよう注意が必要です。それらは下記の図にあるような濃い前刷り、丸くダイカットされたラベルのコーナー、隣同士のラベルに関連したギャップ、及び無関係な切抜きです。



**Sensing Media with Horizontal Black Mark(s) or Media with No Label Length Indicators (Disable) (黒い水平マークのあるメディア又はラベルの長さを示すインジケータ(無効)がないメディアを検出する。**



**Sensing Media with Horizontal Black Marks (黒い水平マークのあるメディアを検出)**

メディアの下側にある黒い水平マークを検知するよう下部メディアセンサーを位置付け、一貫したバックグラウンドを備える為に上部センサーを下部センサーの上に配置します。

1. メディアガードの細長い隙間からセンサーの位置を確認してください。下部センサーから放たれる赤い光をポインタとして利用してください。
2. センサーハンドルを使ってメディア上の黒いマークの中心にセンサーを位置付けてください。
3. *Sensors > Control > Gap/Mark Sensor* メニューから”Mark”を選んでください。ページ33の”*Sensing Different Media*”を参照してください。
4. 自動キャリブレーション(Calibrate)を行ってください。ページ34の”*Running Auto Calibrate*”を参照してください。

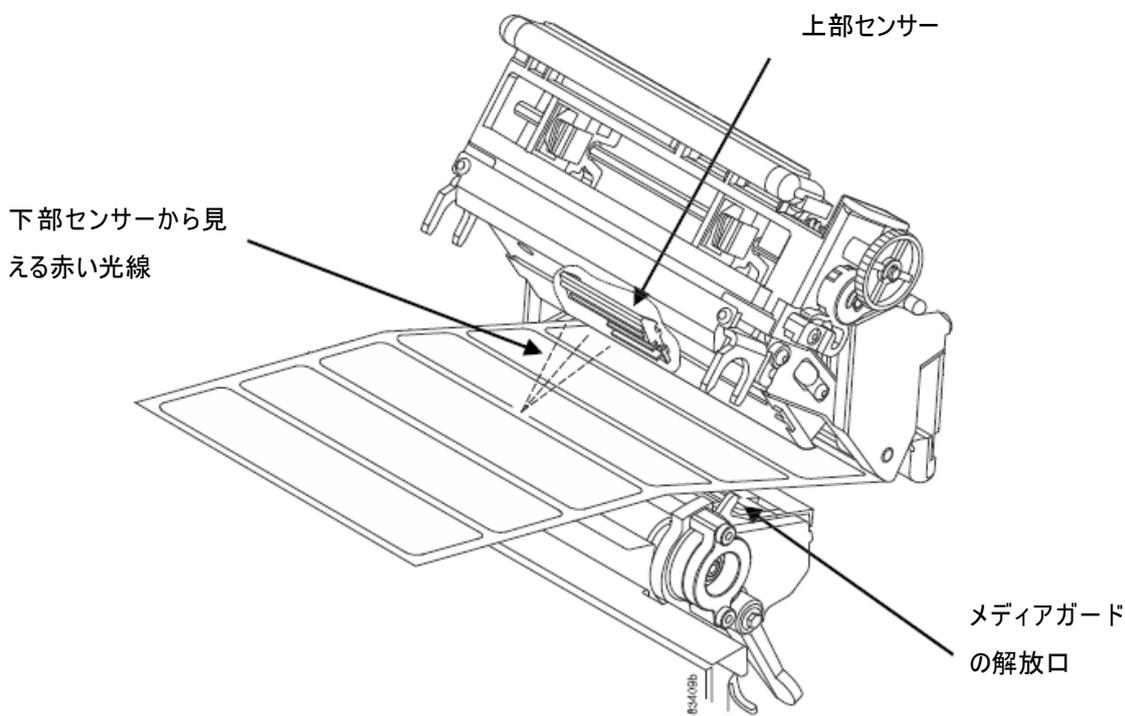
**Sensing Media with No Label Length Indicators (ラベルの長さを示すインジケータがないメディアを検出)**

1. ラベルの長さを示すインジケータ(ギャップ、切り込み、穴又はマーク)のメディアを使う場合又は存在

するすべてのインジケータを無視したい場合、“Paper Out”(紙がない)状態を検知するため、下部センサーをメディアの中止に当ててください。その上側に上部センサーを取付ください。

2. *Sensors > Control > Gap/Mark Sensor* メニューから“Disable”(無効)を選んでください。ページ33の *Sensing Different Media Types* を参照してください。
3. 自動キャリブレーション(Calibrate)を行ってください。ページ34の *Running Auto Calibrate* を参照してください。

### Sensing Media with Gaps, Notches, or Holes (Gap) (ギャップ、切り込み又は穴(ギャップ)のあるメディアを検出する)



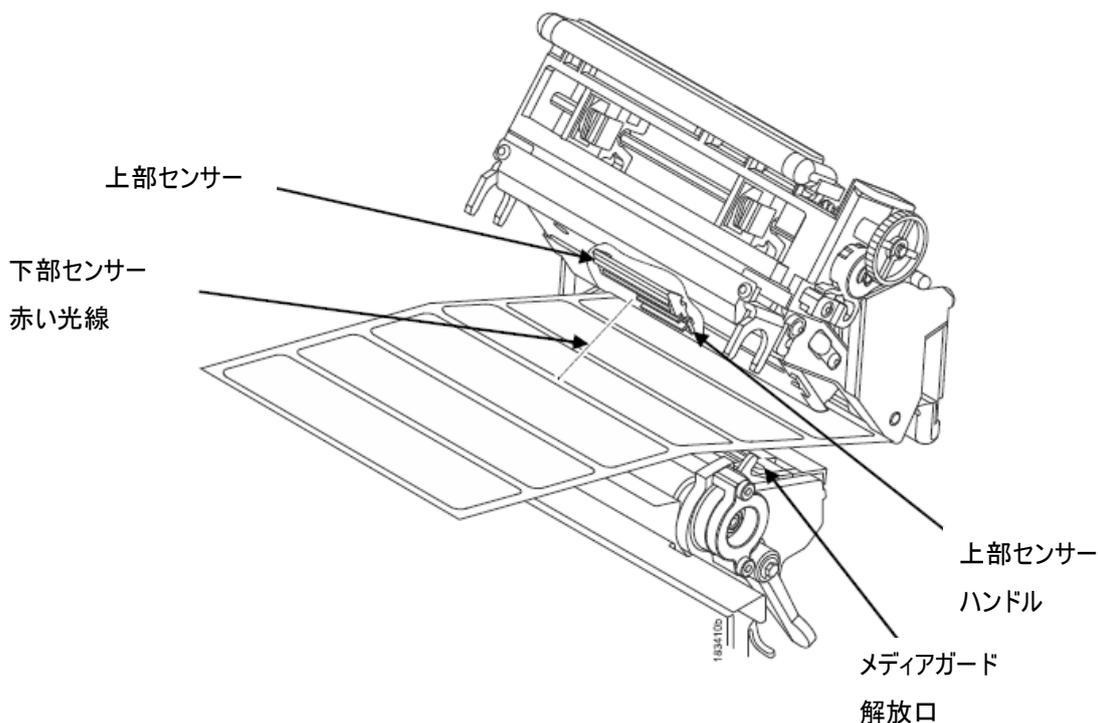
白の背景のメディアにあるギャップ、切り込み又は穴を検知できるように下部センサーを位置付けてください。直接型熱転写用のメディアを使用する場合は、上部のセンサーを下部センサーから離してください。

**注記:** T8000 4インチモデルの場合メディアガードは3つの開かれたセンサー区域に分かれています。メディアセンサーはその開かれた箇所に配置してください。

1. 下部センサーをギャップ、切り込み又は穴の真下に配置してください。
2. メディアガードの細長い隙間から下部センサーの位置を確認してください。下部センサーから放たれる赤い光をポイントとして利用してください。
3. センサーハンドルを使ってメディア上のギャップ、切り込み又は穴の中心にセンサーを位置付けてください。
4. *Sensors > Control > Gap/Mark Sensor* メニューから“Gap”を選んでください。ページ33の *Sensing Different Media* を参照してください。

5. 自動キャリブレーション(Calibrate)を行ってください。ページ34の”*Running Auto Calibrate*”を参照してください。

**Sensing Media with Dark Background Labels with Gaps (Advanced Gap) (ギャップ(高度なギャップ)のある裏側が濃い色のラベルのメディアを検出する)**



**注記:** 図にはリボンは表示されていません。上部及び下部センサーはリボンがなくても機能するように設計されています。

上部及び下部センサーは白又はクリアなライナーで、裏側が黒又は濃い色のダイカットラベルの間のギャップを検出するために一緒に使われます。

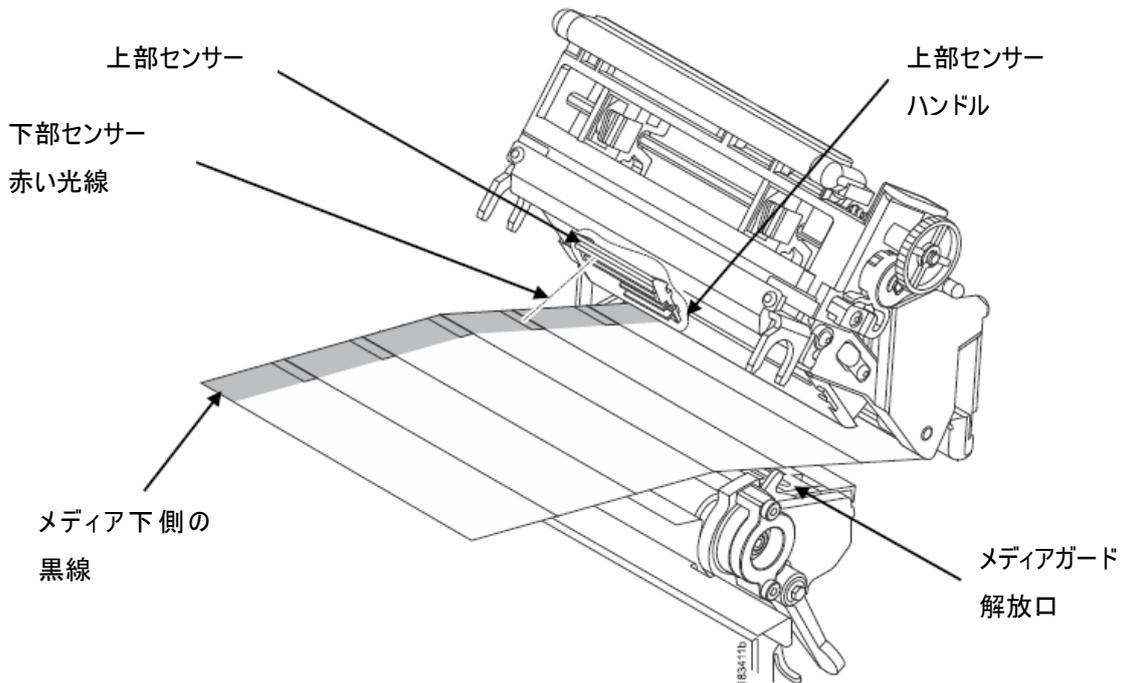
1. 下部センサーをギャップの中心の真下に配置し、上部センサーを下部センサーの真上に配置してください。
2. メディアガードの細長い隙間から下部センサーの位置を確認してください。下部センサーから放たれる赤い光をポインタとして利用してください。
3. センサーハンドルを使ってメディア上のギャップの中心にセンサーを位置付けてください。次に上部センサーのハンドルで下部センサーの真上に来るように調整してください。

**注記:** リボンを使用している時にはリボンを片方にスライドさせてから上部センサーを調整しなければならない場合があります。

4. *Sensors > Control > Gap/Mark Sensor* メニューから”Advanced Gap”を選んでください。ページ33の”*Sensing Different Media*”を参照してください。

5. 自動キャリブレーション(Calibrate)を行ってください。ページ34の”Running Auto Calibrate”を参照してください。

**Sensing Dark Background Media with Notches or Holes (Advanced Notch) (切り込み又は穴(Advanced Notch)のある裏側が濃い色のメディアを検出する)。**



**注記: 図にはリボンが表示されていません。上部及び下部センサーはリボンがなくても機能するように設計されています。**

上部及び下部センサーは裏側が黒又は濃い色のメディア上の切り込み又は穴白又はクリアなを検出するために一緒に使われます。この組み合わせはラベルの下側に端に沿って黒い線があるタグなどに見つかり、切り込み又は穴はラベルの長さを示すために使われます。

1. 下部センサーを切り込み又は穴の中心の真下に配置し、上部センサーを下部センサーの真上に配置してください。
2. メディアガードの細長い隙間から下部センサーの位置を確認してください。下部センサーから放たれる赤い光をポイントとして利用してください。
3. センサーハンドルを使ってメディア上の切り込み又は穴の中心にセンサーを位置付けてください。次に上部センサーのハンドルで下部センサーの真上に来るように調整してください。

**注記: リボンを使用している時にはリボンを片方にスライドさせてから上部センサーを調整しなければならない場合があります。**

4. Sensors > Control > Gap/Mark Sensor メニューから”Advanced Notch”を選んでください。ページ33の”Sensing Different Media”を参照してください。
5. 自動キャリブレート(Calibrate)を行ってください。ページ34の”Running Auto Calibrate”を参照してください。

### Sensing Different Media Types (異なるメディアの種類を検出する)

プリンタのメディアセンサーは、幅広いメディアの種類に使用されている多種多様なラベルの長さのインジケータ(長さを表すもの)の種類を検出することができます。これは正しいセンサーオプションを選択することにより達成されます:ギャップ、マーク、高度なギャップ、高度な切り込み、又は、*Sensors > Control > Gap/Mark Sensors* メニューあるいは”Printer Setup”ウィザード内で無効にする。

1. PAUSE キーを押してプリンタをオフラインに(ホームスクリーン)。
2. 設定アイコンを見つけて ENTER を押す。 
3. “ENTER SWITCH UNLOCKED”が表示されるまで、UP+DOWN キーを同時に押し続ける。
4. センサーアイコンを見つけて ENTER を押してください。 
5. “Control”サブメニューを選んで、ENTER を押します。
6. “Gap/Mark Sensor”オプションを見つけて、ENTER を押してこのメニューを編集します。取り付けられているメディアのラベルの長さのインジケータとマッチするオプションを見つけてください。
  - **Mark:** ラベルライナー又はタグストックの下側に水平の黒いマークがあるメディアを使う場合に選んでください。
  - **Gap:** 裏側が白いメディアでラベルの長さのインジケータとしてダイカットラベル間のスペース又はタグストックに切り込みあるいは穴があるメディアを使う場合に選んでください。
  - **Advanced Gap:** 裏側が黒いダイカットラベルのあいだにライナーギャップがあるメディアを使っている場合に選択してください。
  - **Advanced Notch:** メディアの下側の黒い垂直線に割り込む切り込み又は穴のあるメディアを使っている場合に選んでください。
  - **Disable:** ラベルの長さのインジケータ(ギャップ、切り込み、穴又は黒いマーク)がない又は現在のメディアに在するすべてのラベルの長さのインジケータをプリンタに無視させる場合にこれを選んでください。

注記: Disable(無効)を選択した場合、各ラベルの長さは Media > Image > Label Length メニュー又はホストソフトウェアから送られる数値に基づきます。

注記: Advanced Gap 又は Advanced Notch から Gap 又は Mark の検出に変更あるいは逆もまた同様に行つてことにより PAPER OUT(紙無し)の誤ったメッセージをプリンタが検出した場合、Home Screen(ホームスクリーン)で Calibrate(キャリブレート)を実行してください。 

7. Enter を押して表示されたオプションを有効にするか、あるいは”Apply”の標識付きの RIGHT SOFT キーを使います。選択したものの横にアステリスク(\*)が現れます。

8. Home Screen (ホームスクリーン)に戻るには PAUSE キー又は LEFT SOFT キーを押してください。
9. ページ39の”Calibrating the Media Sensors”を再度ご覧ください。
10. ページ34の”Running Auto Calibrate”に従って自動キャリブレート (Calibrate)を行ってください。

### Calibrating the Media Sensors (メディアセンサーをキャリブレートする)

メディアとリボンの製造の違いによって、メディアセンサーはラベルとライナー又はラベルと黒いマークの違いを認識するのが難しい場合が考えられます。このような事が起こった場合、プリンタは時折ラベルを飛ばしたり又は”GAP NOT DETECTED”あるいは”PAPER OUT”のような誤ったメッセージを表示します。

*Sensors > Control > Gap/Mark Thresh* あるいは *Sensors > Control > Paper Out Thresh* の数値を変更することによりメディアセンサーの感度及び信頼性を向上させる事が可能です。これらの数値は *Sensors > Calibrate* のメニューから Auto Calibrate で自動的に、あるいは Manual Calibrate (手動)手順に従って変更できます。(現状のコンフィグレーションメニューの中では変更はすぐさま有効になります)

表示されている検知された距離値が装着されているメディアと正しく一致していれば、自動又は手動キャリブレートが正常に完了したことになります。ギャップが選択されている場合、検出された距離は、1つのギャップの後ろの端から次のギャップの後ろの端までの長さと同じする必要があります (又は1つのラベル+1つのギャップ)。マークが選択されている場合、検出された距離は、1つの黒いマークの先端から次の黒いマークの先端までの長さと同じする必要があります。

自動又は手動キャリブレートが完了しましたら、FEED キーを数回押して数値が正しいかどうかを確認できます。FEED を押すたびにメディアはラベル1枚を前に送り、次のラベル上端を正しくセットします。

正しい数値が確認できましたら、プリンタの電源を落とす前に必要なコンフィグレーションメニューへ保存してください。

### Running Auto Calibrate (自動キャリブレートを起動する)

自動キャリブレートはホームスクリーンアイコン  又は設定  のところのセンサーメニューから起動することができます。 

**注記:** Gap/Mark センサーオプションは(ギャップ、マーク、高度なギャップ、高度な切り込み又は無効)、取り付けられているメディアと一致していることを確認してください。ページ33の”Sensing Different Media”を参照してください。

ラベルの長さのインジケータを検知できるようにメディアセンサーが水平になっている事を確認してください。ページ28の”Positioning the Media Sensors”を参照してください。

Media > Image > Label Length の数値が取り付けられているメディアの実際の長さに一致し

ていることを確かめてください。正しい長さを入力することによって、長いラベル(実際のギャップ、切り込みとマークが検出できるように)をキャリブレーション中にプリンタがメディアを十分に進め、短いラベルの場合はメディアの進みを少なくします。

ピールオフ機能が有効になっている場合は、自動キャリブレーションを行えば、LCD 画面に”CANNOT CALIBRATE”とエラーメッセージが表示されます。自動キャリブレーションをする前に他のメディア取扱モードを選んでください。

1. PAUSE キーを押してプリンタをオフラインに(ホームスクリーン)。
2. キャリブレーションのアイコンを選んで、ENTER を押してください。
3. メディアはラベルの長さのインジケータが正確に検知されるまで前に進み、上端(TOF)の位置で止まります。検知された距離の数値は1秒間表示されます。
4. 検知された距離の数値が取り付けられているメディアのものと正しく一致すれば、自動キャリブレーションが成功したことになります。

- **Gap/Mark Sensor = Gap, Advanced Gap or Advanced Notch:** 検知された距離の数値は物理的に1枚のラベルとギャップ、切り込み又は穴の長さです。
- **Gap/Mark Sensor = Mark:** 検知された距離の数値は物理的に1つの黒マークの最先端から次の黒マークの最先端です。
- **Gap/Mark Sensor = Disable:** 適用されない。もし Gap/Mark センサーが無効に設定されている場合は、検知された距離の数値は更新されません。

もし”GAP NOT DETECTED”が表示された場合、自動キャリブレーションを再度実行してください。

自動キャリブレーションを実行しても、表示される検知された距離の数値が正しくない場合、又はエラーメッセージが出る場合は、ページ41の *Running Manual Calibrate* を参照してください。

**注記:** 自動キャリブレーション中にサンプリングされたメディアの量は、ラベルの長さ及びエラーなしでラベルとその長さのインジケータの検知された変化に基づいています。

5. FEED キーを数回押してください。FEED を1回押す度に、メディアは1枚のラベルの長さ分を送って止まります。

**注記:** ラベル送りのあとでは、次のラベルの最先端は *Media > Handling > Media Handling* メニューで選択されたメディアの取り扱いモードによります。Tear-Off(ティアオフ)及び Tear-Off Strip Media Handling (ティアオフストリップメディア扱い)はラベルの端をティアバーに位置付けますが、連続の場合、ラベルの端がプリントヘッドの下に来ます。

6. 検知された距離の数値が確認されれば、プリンタをオフにする前に希望されるコンフィグレーションへ保存してください。
7. プリンタがオンラインに戻るまで PAUSE キーを押してください。

### Running Media Profile (メディアプロファイルを実行)

メディアプロファイルのプリントアウトは、紙無しのにしきい値とギャップ/マークのにしきい値の関係、各ラベルの長さのインジケータが検出された場合、そしてラベルの長さのインジケータとラベルの違いを示します。プロファイルのプリントアウト(ページ42の図3)は難しいメディアのにしきい値を設定するのに役立ちます。これには前刷りラベル及び不十分なギャップ/メディアダイナミックレンジが含まれます。

メディアプロファイルが一度実行されると、プリンタはメディアを先へ送り続け、ENTER を押して印刷を停止するまでプロファイルを横向きで印刷します。

**注記:** *Sensors > Control > Gap/Mark* センサーオプション(ギャップ、マーク、高度なギャップ、高度な切り込み、又は無効)が取り付けられているメディアと一致する事を確かめてください。ページ33の異なるメディアの種類を検出するを参照してください。

プロファイルプリントアウトをサポートするためには最小ラベル幅は50.8mm(2インチ)が必要です。

ラベルの長さのインジケータを検知を可能にするため、メディアセンサーを水平に位置付けしてください。ページ28メディアセンサーの位置決めを参照してください。

*Media > Handling > Print Mode* オプションが取り付けられているメディアに一致することを確認してください。感熱メディア(リボン不要)の場合は”Direct”を選び、熱転写メディア(リボン要)の場合は”Transfer”を選んでください。

1. PAUSE キーを押してプリンタをオフライン(ホームスクリーン)にしてください。
2. 設定のアイコンを探して ENTER を押してください。 
3. “ENTER SWITCH UNLOCKED”が表示されるまで上下矢印キーを押してください。
4. センサーのアイコンを探して ENTER を押してください。 
5. “Diagnostic”サブメニューを選んで ENTER を押してください。
6. “Media Profile/Profile Print”を見つけて ENTER を押し、プロファイルの印刷を始めてください。プリンタはメディアを前に送り、検出されたラベルとどのようなラベルの長さのインジケータとの関係を現すダイナミックプロファイルイメージを印刷し続けます。
7. ENTER を押してプロファイルの印刷を止めてください。
8. PAUSE キーを押してプリンタをオフライン(ホームスクリーン)にしてください。

**注記:** プロファイルプリントアウトに表示されるギャップ/マーク及び紙無しのにしきい値は自動又は手動キャリプレートにより導かれた最後の値、又は自動あるいは手動キャリプレートが行われなかった場合の工場デフォルト値を意味します。

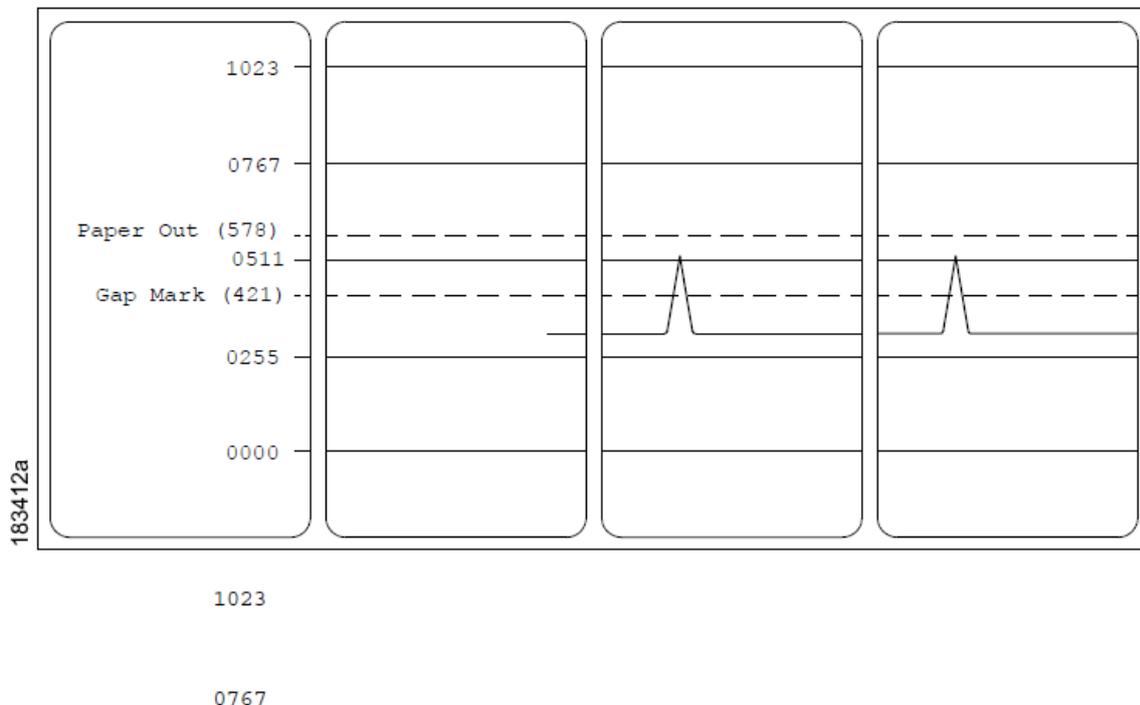
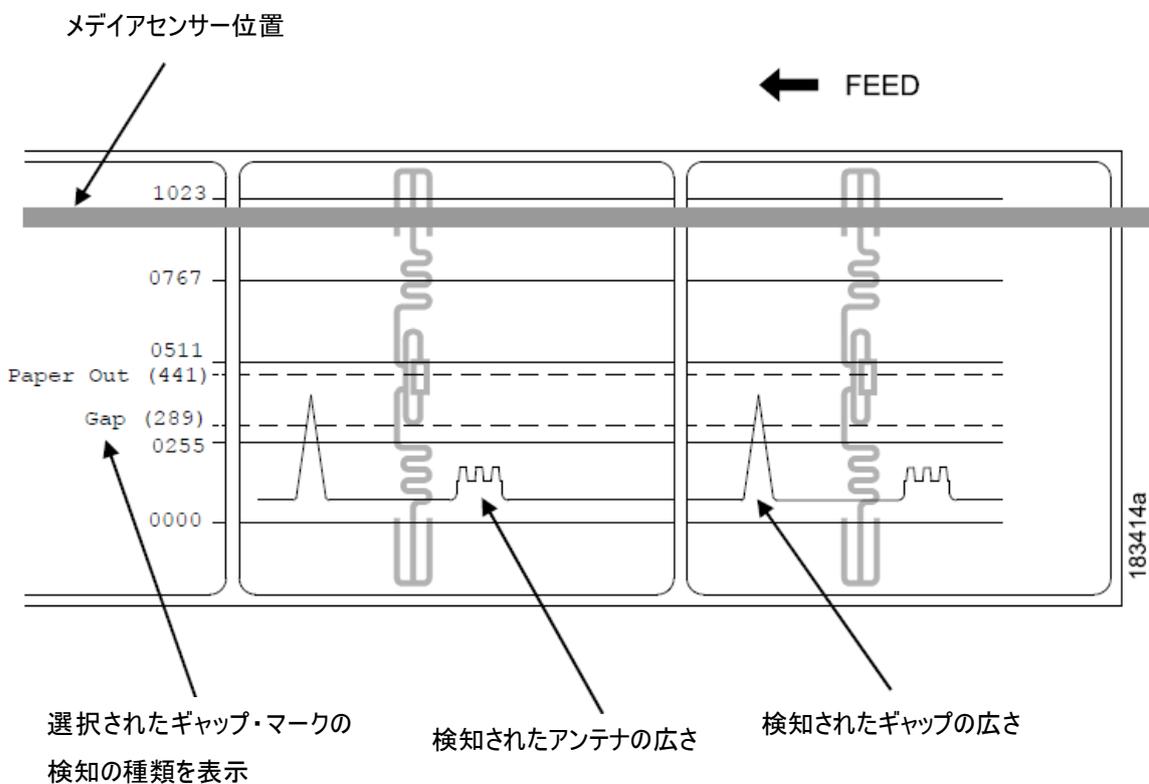


図3 メディア プロファイル プリントアウト

**Gap Sensing (ギャップの検知)**

この図はスマートラベルにおいてギャップ/マークセンサーが *Sensors > Control* メニューで GAP に設定されている場合のメディアプロファイルプリンタアウトです。

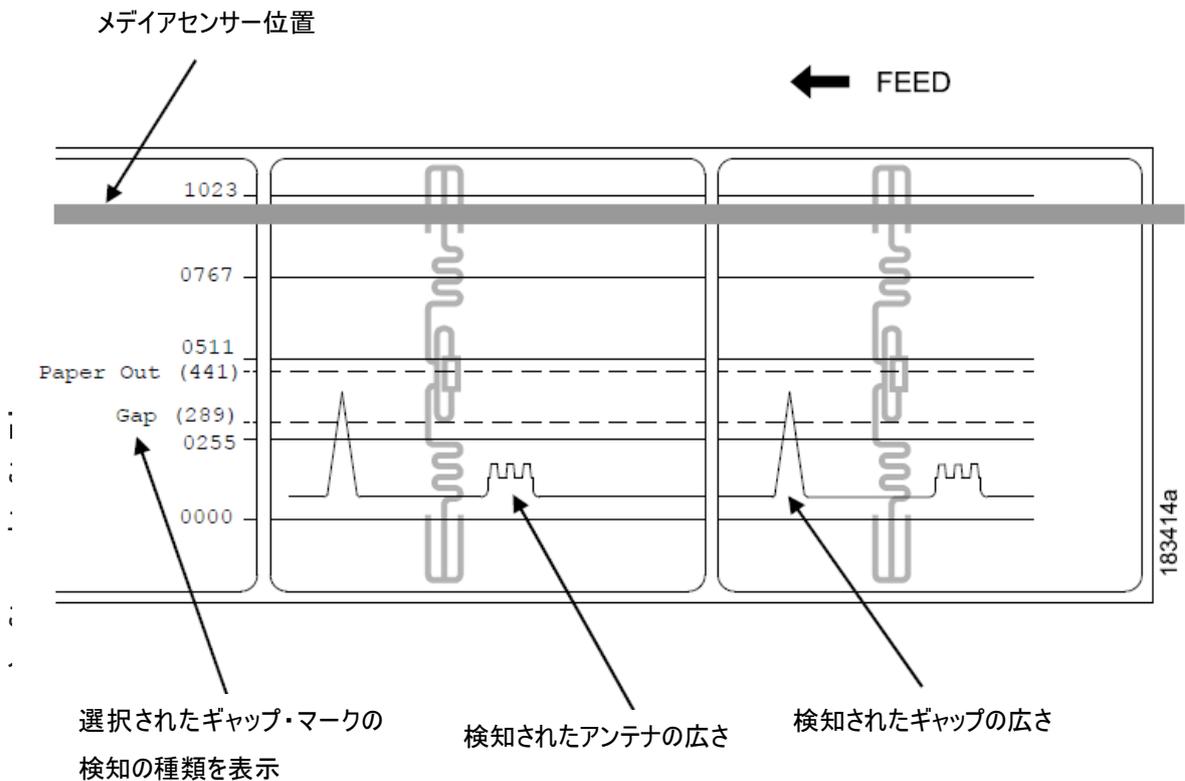
この例では、プリンタが選択したギャップしきい値は(ギャップ/マークの点線に代表される)、アンテナパルスの振幅に近すぎます。これは、プリンタが誤ってギャップ(TOF)としてアンテナを使用する可能性があります



この問題を防ぐためには、しきい値の範囲を *Sensors > Control > Gap/Mark Thresh* メニューで60%~70%(デフォルトは50%)に上げて、*Running Auto Calibrate* を実行してください(ページ34)。

しきい値の範囲を変更しても、自動キャリブレーションを実行しない限り、反映されません。

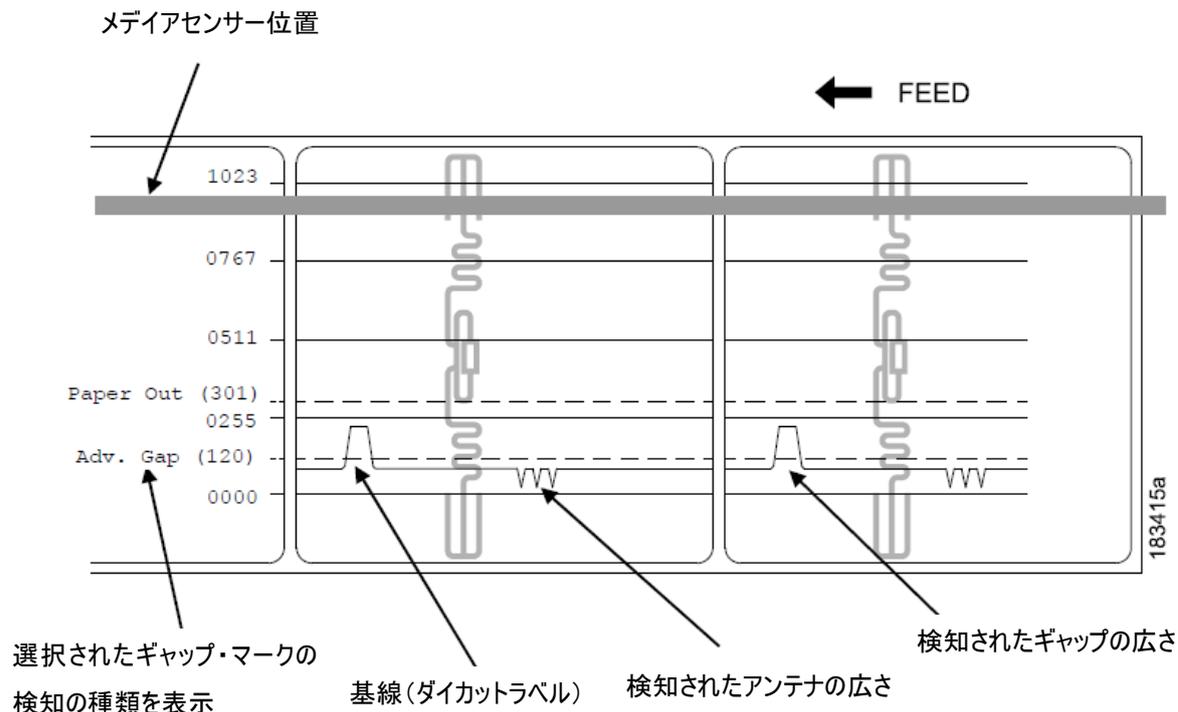
これによりプリンタが誤ってアンテナをギャップ(TOF)として使うことがないところまでギャップ/マークのしきい値を上げます。



### Advanced Gap Sensing (高度なギャップの検知)

この図は Sensors > Control > Gap/Mark センサーメニューが高度なギャップに設定されている時のスマートラベルのメディアプロファイルプリントアウトです。

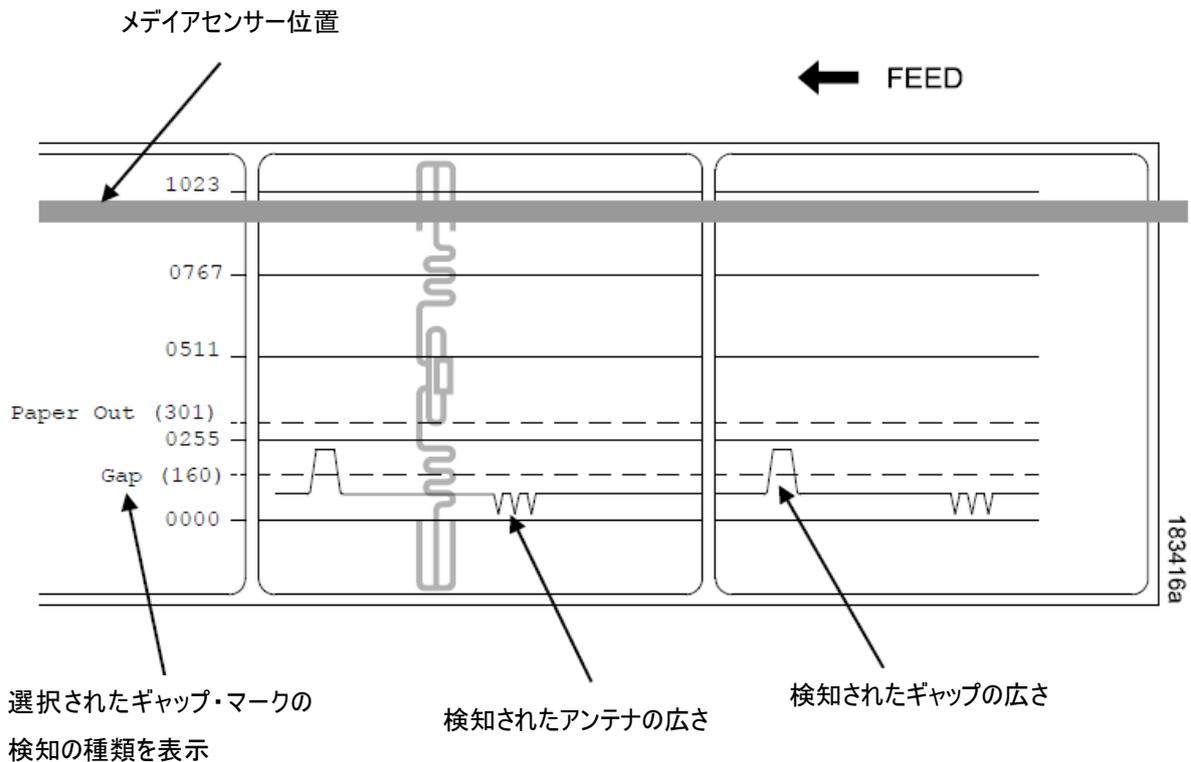
この例では、プリンタが選んだギャップの閾値(ギャップ・マーク点線)が基線(ダイカットラベル)に近過ぎる。もしノイズもしくはライナー又はリボンの不透明度が増加した場合、プリンタは誤ってノイズをギャップ(TOF)として使う可能性があります。



この問題を防ぐためには、しきい値の範囲を *Sensors > Control > Gap/Mark Thresh* メニューで60%(デフォルトは50%)に上げて、自動キャリブレーションを実行してください。

**注記:** しきい値の範囲を変更しても、自動キャリブレーションを実行しない限り、反映されません。

これによりプリンタが誤ってアンテナ又はノイズをギャップ(TOF)として使うことがないところまでギャップ/マークのしきい値を上げます。



### Running Manual Calibrate (手動でキャリブレーションを実行)

手動でのキャリブレーションは、自動キャリブレーションがもたらす数値がラベルの長さのインジケータを検知するメディアセンサーの能力を向上できない場合に限り実行してください。手動キャリブレーションは *Sensors > Diagnostics* のセクションにあります。

**注記:** Gap/Mark センサーオプションは(ギャップ、マーク、高度なギャップ、高度な切り込み又は無効)、取り付けられているメディアと一致していることを確認してください。ページ33の”Sensing Different Media”を参照してください。

ラベルの長さのインジケータを検知できるようにメディアセンサーが水平になっている事を確認してください。ページ28の”Positioning the Media Sensors”を参照してください。

*Media > Handling > Print Mode* オプションが取り付けられているメディアに一致することを確認してください。感熱メディア(リボン不要)の場合は”Direct”を選び、熱転写メディア(リボン要)の場合は”Transfer”を選んでください。

*Media > Image > Label Length* の数値が取り付けられているメディアの実際の長さに一致していることを確かめてください。正しい長さを入力することによって、長いラベル(実際のギャップ、切り込みとマークが検出できるように)をキャリブレーション中にプリンタがメディアを十分に進め、短いラベルの場合はメディアの進みを少なくします。

ピールオフ機能が有効になっている場合は、自動キャリブレーションを行えば、LCD 画面に”CANNOT CALIBRATE”とエラーメッセージが表示されます。自動キャリブレーションをする前に

**他のメディア取扱モードを選んでください。**

1. PAUSE キーを押してプリンタをオフライン(ホームスクリーン)にしてください。
2. 設定のアイコンを探して ENTER を押してください。
3. “ENTER SWITCH UNLOCKED”が表示されるまで上下矢印キーを押してください。
4. センサーのアイコンを探して ENTER を押してください。
5. “Diagnostic”サブメニューを選んで ENTER を押してください。
6. “Manual Calibrate”を見つけて”ENTER”を押してください。
7. 画面に表示されている手順に従ってください。例えば、”REMOVE RBN&MEDIA/Press Enter が現れば、ピボットデッキを開いてリボンとメディアをプリントヘッドから取り除き、ピボットデッキを閉めて、ロックをし、ENTER を押す必要があります。
8. 手動キャリブレーションの最終段階では、プリンタはメディアを前に送り、ラベルの長さのインジケータを検出しようと試み、トップオブフォーム(TOF=用紙のスタート位置)で停止しようとします。検知された距離の値が1秒間表示されます。検知された距離の値が取り付けられているメディアと正しく一致すれば、キャリブレーションは成功したことになります。もし”CALIBRATION Fail”とエラーメッセージが表示されれば、手動キャリブレーションを再度実行してください。



**注記： 手動キャリブレーション中にサンプリングされたメディアの量は、ラベルの長さ及びエラーなしでラベルとその長さのインジケータの検知された変化に基づいています。**

9. PAUSE キーを押してプリンタをオフライン(ホームスクリーン)にしてください。
10. FEED キーを数回押してください。FEED を押すたびに、メディアは1枚のラベルの長さ分を前に送り、停止します。

**注記： 用紙を送ったあとでは、次のラベルの最先端は *Media > Handling > Media Handling* メニューで選択されたメディアの取り扱いモードによります。Tear-Off(ティアオフ)及び Tear-Off Strip Media Handling (ティアオフストリップメディア扱い)はラベルの端をティアバーに位置付けますが、連続の場合、ラベルの端がプリントヘッドの下に来ます。**

11. 正しい値が確認されれば、プリンタの電源を切る前に希望するコンフィグレーションメニューに保存してください。

## Cleaning（クリーニング）

使用されるメディアによって、通常の印刷においても残留物（メディアのほこり、接着剤、等）が副産物として蓄積されます。最良の印字品質を保つために、そのような残留物を取り除く掃除を定期的に行ってください。

**警告：** 掃除を始める前に必ずプリンタの電源をオフ(O)にしてください。電源コードは、接地した状態を確保して、静電気によるダメージのリスクを軽減するために接続したままにしておいてください。

**重要：** プリンタをオフにした場合、変更されたメニュー設定及び保存されていないバッファに残っている印字データはすべて失われます。

**注意：** \* プリンタを掃除している間は指輪や金属類のものは身につけないでください。

\* このセクションで推奨されるクリーナを使ってください。他のものを使うと、プリンタに悪影響を与える可能性があります。

\* 液状の洗浄剤などはプリンタの内部へスプレーしたり、中に落ちたりしないように気をつけてください。溶液は綺麗な布に付けて、湿った布でプリンタを拭いてください。

\* 缶入り圧縮空気は使用しないでください。ほこりや残留物がセンサーや他の重要な部分に降りかかる心配があります。

\* 導電性があり、接地されているノズル付きの電気掃除機を使って積もった不純物を吸い上げてください。

\* プリントヘッドへの湿度による腐食の危険を軽減するために、イソプロピル・アルコールの使用については 99%以上のものを使ってください。

## Exterior Cleaning（外部のクリーニング）

プリンタの外側は綺麗な布で拭いてください。必要があれば、マイルドな洗剤を使ってください。

## Interior Cleaning（内部のクリーニング）

上に説明があるように、プリンタの内部は電気掃除機を使って汚れや布の糸くずなどを吸い込むか、あるいは柔らかいブラシを使ってください。

## Cleaning the Printhead, Plater Roller, Media Sensors and Media Damper（プリントヘッド、プラテンローラ、メディアセンサー及びメディアダンパー（緩衝器）のクリーニング）

**注記：** プリントヘッド、プラテンローラ、メディアセンサー及びメディアダンパーは以下にそれぞれ別に取り上げていますが、これらに付着している不純物や接着剤などは最終的にプリントヘッドの周囲に移動しますので、プリントヘッドを掃除するたびにすべてのパーツを説明されている手順に従って、点検の上クリーニングしてください。

## Print Head Cleaning（プリントヘッドのクリーニング）

プリンタを使用していれば、プリントヘッドはリボンの残留物やラベルの接着剤で汚れてきますので、印字品

質も低下します。プリントヘッドをいつも綺麗にしていれば、寿命を維持する手助けになります。

- ◆ **クリーナ** — プリントヘッドの掃除に付いては、私どもの“クリーニングペン”又は“イソプロピル・アルコール”を使用することを推奨します。
- ◆ **スケジュール** — 新しいリボン(熱転写印刷モード)を装着する場合、あるいは新しいロール紙(感熱紙モード)を取り付けるたびにプリントヘッドの掃除をしてください。

**警告:** 印刷をしているのであれば、誤ってプリントヘッドに接触して火傷を負わないために、プリントヘッドが冷めるまで1分間ほど待ってください。

- 注意:**
- ☆ 静電気によるダメージをプリントヘッドに与えないために、プリンタの塗装されていない枠に先に触れたり、プリントの枠に接地されている静電気防止用首首バンドは使わないでください。
  - ☆ 硬たく、尖ったものや研磨材などをプリントヘッドの掃除には使わないでください。
  - ☆ プリントヘッドの腐食を避けるために、プリントヘッドの発熱体の表面を手で直接触れないでください。もし偶然に発熱体部分に触れた場合、すぐさまプリントヘッドクリーニングペンあるいはイソプロピル・アルコールで徹底的に拭いてください。
  - ☆ 腐食を防ぐために発熱体の表面に凝縮状態が起こらないように気をつけてください。

1. ブルーのデッキロックレバーを時計回りに回転してピボットデッキを開き、メディアとリボンがあれば、取り外してください。
2. イソプロピル・アルコール又はプリントヘッドクリーニングペンを使ってプリントヘッドの薄茶色の発熱体部分をそっと拭いてください。メディア又はリボンを再度取り付ける前に1分間プリントヘッドを乾かしてください。

**注記:** プリントヘッドを十分掃除をしても、プリントアウトに隙間や筋がついていることがあります。これは定期的なクリーニングを行っていない場合、焼きついたリボンの樹脂が簡単に取れないことが原因となりえます。サーマルプリンタのクリーニングカード又はシートを使ってみてください。クリーニングカード又はシートを使う場合は、パッケージ上にある指示に従ってください。

### Platen Roller Cleaning (プラテンローラのクリーニング)

プラテンにラベルの破片、メディアのほこりや接着剤が付着すると、印字の品質が悪くなり、ラベルイメージに隙間などができる原因になります。

- ◆ **クリーナ** — “イソプロピル・アルコール”を布に含ませてプラテンローラを綺麗に拭いてください。
  - ◆ **スケジュール** — プリントヘッドを掃除するたびにプラテンローラもクリーニングしてください。
1. 最初にラベルの破片などを取り除いてからプラテンローラをクリーニングしてください。その後で“イソプロピル・アルコール”を布に含ませて残っている紙のほこり、残量物やラベルの接着材を拭きとってください。プラテンローラを前方に手で回転させて表面全体を拭いてください。

**注記:** プラテンモータに電気ようなは通っていませんが、プラテンを回転させる時に多少抵抗を感じます。

2. 印字イメージに切れ目が入る原因となるような刃物傷、溝、刻み傷などがプラテンローラ存在しない

か、確認してください。このような傷が見つかった場合は、プラテンローラの交換が必要になることがあります。

### Media Sensor Cleaning (メディアセンサーのクリーニング)

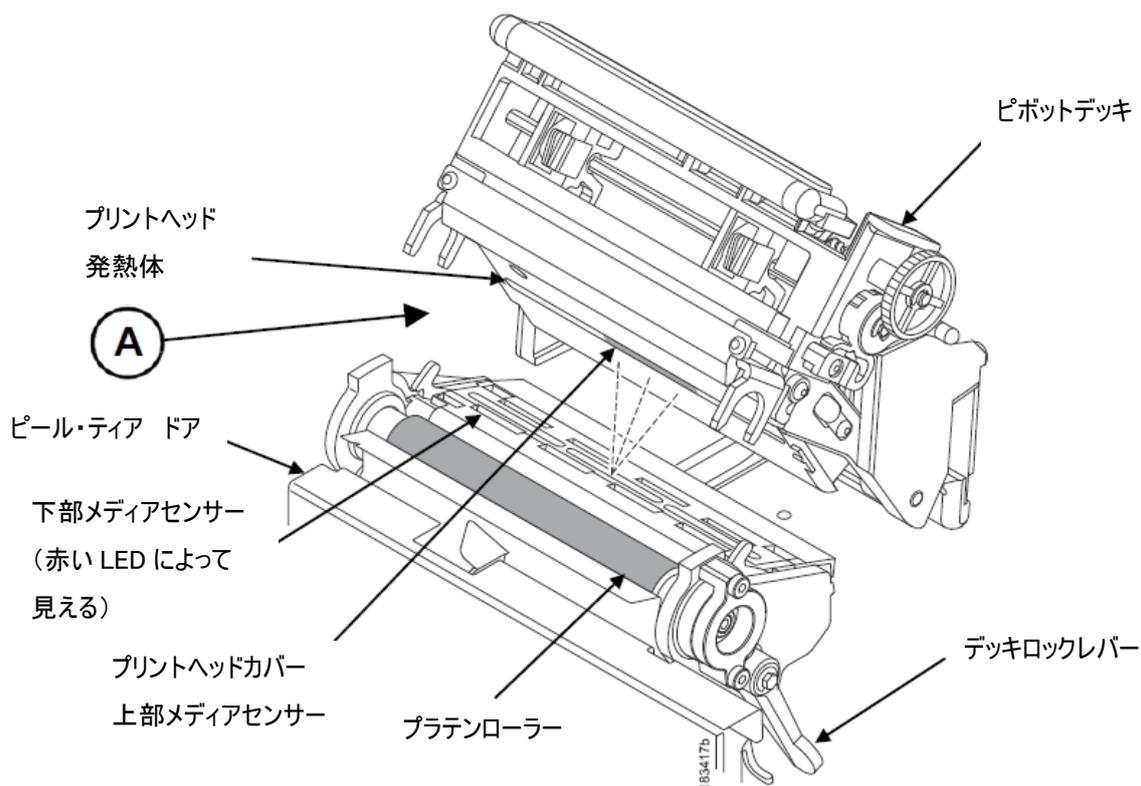
トップオブフォーム(TOF)及び紙なし状態を検知できるように上部及び下部センサーにクリーニングが必要です。

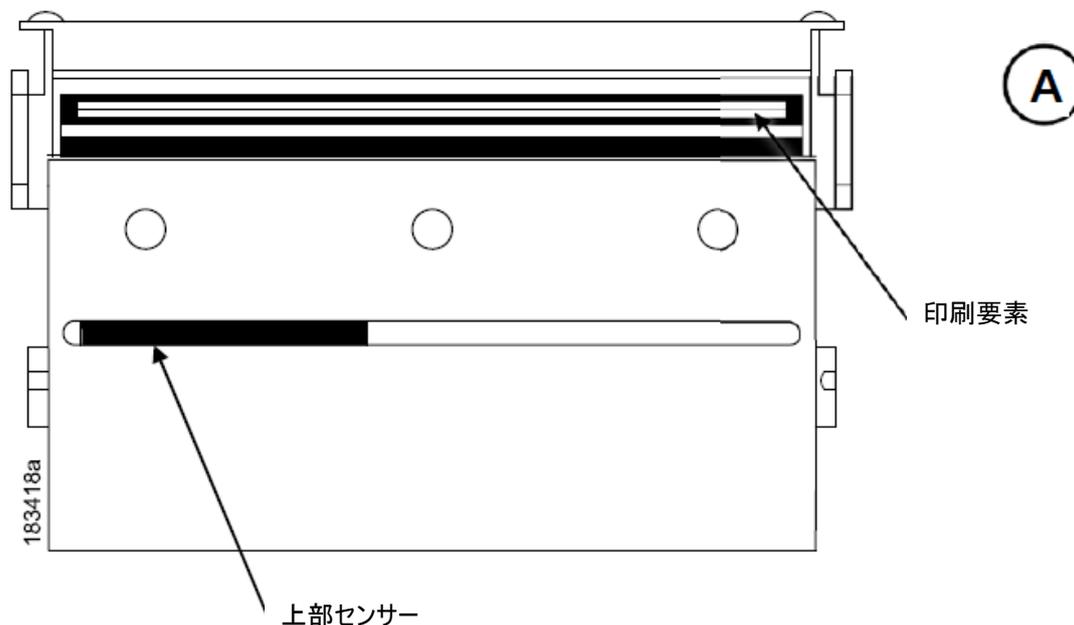
**注意:** 下部メディアセンサーのクリーニングにはイソプロピル・アルコール、溶剤、又は研磨剤は使用しないでください。センサーのレンズカバーを傷つけます。

◆ クリーナ — 先が柔らかい非金属ブラシ又は電気掃除機でほこりなどを取り除いてください。

**注記:** 上部センサーの場合は、イソプロピル・アルコール又はプリントヘッドクリーニングペンを使ってラベルの接着剤を取り除いてください。

◆ スケジュール — プリントヘッドを掃除するたびにメディアセンサーもクリーニングしてください。上部及び下部センサーからほこりや残留物をブラシで掃除をするか、あるいは吸い取ってください。





### Media Damper Cleaning (メディアダンパーのクリーニング)

メディアダンパー及びメディア幅ガイド(ページ45)のメディアセンサークリーニングを参照)には適正なラベルのガイドを妨げるようなラベルの破片、接着剤及び紙のほこりなどが積もります。

- ◆ クリーナ — 綺麗な布にイソプロピル・アルコールを含ませて、拭いてください。
- ◆ スケジュール — プリントヘッドを掃除するたびにメディアダンパー及びメディア幅ガイドをクリーニングしてください。

メディアダンパーを掃除する時には反時計回りに回転させて、ラベルの破片などを底面の表面を綺麗にしてください。その後、イソプロピル・アルコールを使って残っているすべての残量物や接着剤をダンパー及び内外のガイドから取り除いてください。

**重要:** 接着剤は完全に取り除いてください。それを実行しなければ、ダイカットラベルがライナーから誤って剥がれる事態を起こす事が考えられます。

### Cutter Option Cleaning (オプションカッターのクリーニング)

カッターは定期的なクリーニングだけで十分です。

**警告:** カッターの刃に指を近づけないでください。刃は非常に鋭いです。

多くのほこり又は残留物が目につくようであれば、下記の方法でクリーニングを実施してください。

1. プリンタをオフ(O)にしてください。
2. デッキロックレバーをデッキが上に上がるまで時計回りに回転させてください。
3. 2つの拘束蝶ねじを緩めてカッターのトップカバーを外して下さい。
4. カッターを下向け(開いている状態)にしてください。

5. 電機掃除機あるいはノズルの付いた缶入り圧縮空気を使って、カッターの刃の周りからほこりや残留物を取り除いてください。
6. カッターの刃及び上部と下部のステンレス製カッターガイドから WD-40 オイルとクロスを使って接着剤を取り除いてください。ほこりが付かないように、オイルは乾いた布で拭き取ってください。

**注意： イソプロピル・アルコールは潤滑油を分解しますので、カッターの刃には使わないでください。**

7. カッターを上向き(閉まった状態)にしてください。
8. カッターのトップカバーを取付、2つの拘束蝶ねじを締めてください。
9. メディアをプリンタとカッターの間に正しく通してください。
10. ピボットデッキを閉めて、デッキロックレバーを反時計回りに回転してください。
11. プリンタのスイッチをオンにしてください。
12. Tools > Print Tests > Run Test メニューからテスト印刷を行い、カッターの動きを試してください。